

令和6年度 夏季・冬季 地域医療特別実習 報告書



熊本県地域医療支援機構
熊本大学病院 地域医療支援センター
熊本大学病院 地域医療・総合診療実践学寄附講座



熊本県地域医療支援機構
熊本大学病院 地域医療支援センター
熊本大学病院 地域医療・総合診療実践学寄附講座

祝 国宝通潤橋



もくじ

はじめに	1
1. 地域医療特別実習について	2
2. 夏季地域医療特別実習	5
2－1. グループワーク	9
2－2. 地域視察	25
2－3. 夏季実習の様子	27
2－4. 夏季実習の評価と振り返り	31
2－5. 夏季実習参加学生の感想	48
3. 冬季地域医療特別実習	53
3－1. 冬季実習の様子	56
3－2. 冬季実習の評価と振り返り	60
3－3. 冬季実習参加学生の感想	69
4. 教員・外部講師のコメント	71
5. その他	74
おわりに	76

はじめに

日頃より、地域医療支援センターならびに地域医療・総合診療実践学寄附講座の活動にご支援を賜りまして、誠にありがとうございます。令和6年度の夏季・冬季地域医療特別実習報告書をお届けいたします。ご高覧いただけますと幸いです。

この実習は、熊本県医師修学資金貸与を受けている熊本大学医学部生、および熊本県出身の自治医科大学学生の皆さんを主な対象とし、近い将来、医師として活躍される県内地域の医療等の現状を知ってもらうことを目的に、2009年から実施してきました。早いもので、今年で16年目を迎えました。この間、コロナ禍の影響により休止した時期もありましたが、昨年度より再開したところです。本年度は夏季と冬季の2回の実習を行い、計36名の学生（一般学生1名を含む）が参加しました。

夏季実習では球磨地域において、医療機関だけでなく、行政機関や福祉施設等、多岐にわたる施設でのフィールドワークを行いました。また、令和2年7月豪雨で被災された球磨川流域の2施設を訪問しました。災害医療の重要性を学び、地域住民の方々の強じんな復興への意志を、目の当たりにしました。冬季実習では蘇陽地域において、診療所など3つの施設を訪問しました。無医地区や中核病院における医療の現状、限られた資源の中で質の高いサービスを提供するための工夫などを、現場で活躍する医師や職員の方々から直接学ぶことができました。

学生の皆さんは、この実習を通して、そこで暮らす人々の生活や歴史や文化といった、地域の背景を知り、授業では学ぶことのできない貴重な経験を積むことができましたのではないのでしょうか。私自身にとっては、医療の実情や課題を、肌で感じることができました。教員の我々にとって、地域医療の現場で、具体的にどのような教育が期待されているのか、再認識させていただく貴重な機会でした。

最後になりますが、今回の実習実施にご協力いただきました多良木町、湯前町、水上村、あさぎり町、五木村、山都町の皆さま、ならびに関係医療機関、関係施設の皆さまに深く感謝申し上げます。

また、熊本県医療政策課の皆さま、地域医療支援センターならびに地域医療・総合診療診療実践学寄附講座の教員やスタッフの皆さまに、心よりお礼申し上げます。

熊本大学病院
総合診療科 教授
地域医療支援センター センター長
松 井 邦 彦

1. 地域医療特別実習について

▶ 実習の概要

「地域医療特別実習」は、熊本大学病院 地域医療支援センター及び地域医療・総合診療実践学寄附講座が、熊本県地域医療支援機構と連携し、熊本県医師修学資金貸与学生及び熊本県出身の自治医科大学医学部生を主な対象に、将来、熊本県の地域医療に携わる医学生が、県内の地域（熊本市を除く）を訪れ【地域を知る】ことに視点を置いた企画・構成で、毎年、実施しております。

この実習では、実地でのフィールドワーク等を通して、地域の医療・保健・福祉等の現状や課題について学ぶことで、参加学生が多方面から広く地域を知り、地域との関係性を構築するとともに、地域医療に取り組む学生の意欲を醸成し、今後のキャリア形成に資することができるような企画・構成を心がけ取り組んでいます。

また、例年、夏季に2泊3日で実施していましたが、大学カリキュラムや大会出場等で参加が難しい学生がいることから、より多くの学生が参加できるように、令和5年度から1泊2日の日程で夏季・冬季の年2回実施しております。

今年度、夏季は上球磨地域（多良木町、湯前町、水上村、あさぎり町）及び五木村、冬季は上益城地域（山都町）で実習を行いました。

▶ 実習の目標とねらい

この実習では「一般目標」と「行動目標」を設定し、実習を通し「地域を知る」ことの重要性を「実習の手引きとワークブック」に明確に示すことで、学生の主体的な学習意欲を高めることをねらっています。

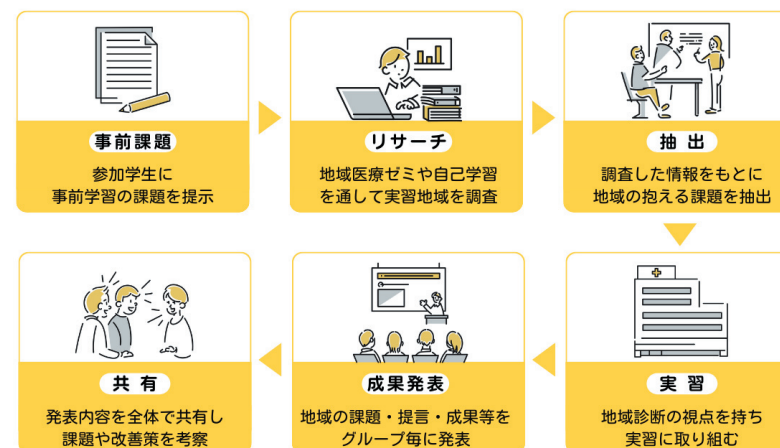
【一般目標】	- 地域を知り、地域との関係性を構築する - 将来、地域に求められる医師となる
【行動目標】	- 地域住民と交流する - 地域の現状を様々な視点から知る - 地域の課題の解決・改善策について発表する - 学生間で交流を深める - 地域で求められる医師像について考察する

【ねらい】 地域を知る実習を通してー

- 地域医療関係者として、地域から自分たちが期待されていることを自覚する
- 地域特性や課題に応じた「地域包括ケア」「自助」「互助」「共助」の現場を体験する
- 医療・福祉・行政サービスの提供／利用のされ方の実際をみる
- コミュニティのなかで、それらのサービスを提供する側の視点と、生活者として利用する側の視点の違いを知る
- 地域によって異なる健康課題があることを分析することにより、将来、医療者としてどのような地域でも求められる健康問題に携わるための示唆を得る

▶ 実習の主な構成

この実習では、「① 主催側より参加学生に事前課題を提示」、「② 学生は事前課題に沿って地域医療ゼミや自己学習を通して実習地域を調査」、「③ 調査した情報をもとに実習地域が抱える課題を抽出(班で共有)」、「④ 抽出した課題を地域診断の視点を持ち実習に取り組み」、「⑤ 事前学習及び本実習を通して知り得た情報や課題をもとに班毎に成果発表を実施」、「⑥ 発表内容を参加学生及び教員、地域の医療従事者や行政関係者等で共有し全体で課題や改善策を考察」する構成で行っています。



▶ 事前学習課題

この実習では、参加学生に次の5つの項目に関する事前学習課題を提示し、学生が自ら実習訪問地域について調査することで、地域についてより深く理解できるようにしています。

【地域の特徴】

自身がフィールドワークを行う地域の特徴について、次の6項目に沿って調査。

- 該当する2次医療圏とその特徴
- 地理・地勢の特徴、自然環境・気候など
- 歴史文化的な沿革、背景、特徴、祭り、風土、風習、生活様式など
- 経済、主産業、労働人口の構成
- 交通のインフラ（共通資本）と移動手段など
- 教育、政治・行政・役所、消防、それらの出先公共機関など

【人口動態、寿命、死亡、罹患・有病資料】

量的データ（統計、アンケート調査結果などの数値化されたデータ）を用いて、国の人口動態統計、自治体の統計、各種保健統計、アンケート調査等のデータにアクセスし、フィールドワークを行うエリアを自分の住む地域と都道府県、全国の値と比較する。

- 人口動態（総人口と推移、出生・死亡、3区分別人口割合、世帯数と割合）
⇒「人口の推移・増減率、将来推計人口、3区分人口割合（高齢化率など）とその推移、世帯数と割合」、「他の地域との比較から見えてくるこのエリアの特徴」
- 有病・罹患・主要死因
⇒「主要死因の構成と順位、その推移」、「注目する各種疾患の死亡率など」、「他の地域との比較から見えてくるこのエリアの特徴」

【寿命、余命、健康寿命】

- 平均寿命、平均寿命とその推移
⇒「平均寿命・健康寿命の推移」、「主な年齢の平均余命など」、「他の地域との比較から見えてくるこのエリアの特徴」

【健康増進や疾病予防、政策】

- 健康増進や疾病予防、関連要因に対する政策や財政、それらのデータ
⇒「各種住民検診及び検診受診率」、「医療費とその推移」、「介護認定状況の推移」、「喫煙率、健康増進、特定の疾患予防、指標」、「健康増進、疾病予防への取り組みやその指標（感染症やワクチン、母子学校保健、障がい者自立支援、精神保健）」、「他の地域にない取り組み、他の地域と比較した特徴」

【地域包括ケア、自助や互助】

- 地域包括ケアの事例や取り組み
⇒「地域包括ケアの取り組みやその事例」
- 自助・互助の事例や取り組み
⇒「自助グループ」、「地域のボランティアなどの自助・共助・互助グループ」、「サロンや集いの場」、「レクリエーション」、「娯楽」

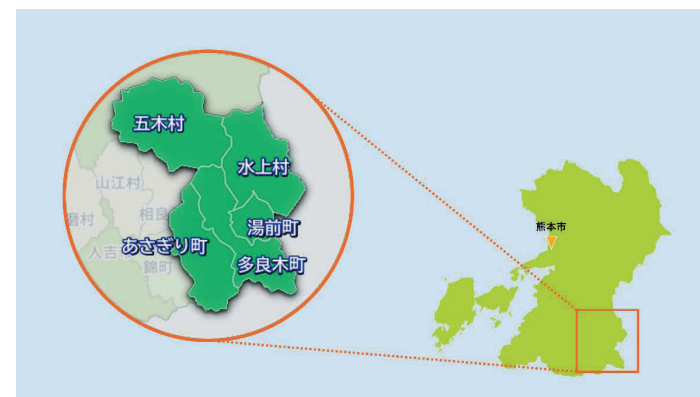
2. 夏季地域医療特別実習

▶ 夏季地域医療特別実習の概要

今年、夏季地域医療特別実習（以下「夏季実習」）は、上球磨地域及び五木村で行いました。

多良木町、湯前町、水上村、あさぎり町及び五木村の各自治体、医療機関、そして地域住民の皆様のご協力のもと、フィールドワークやグループ活動など、充実したプログラムを展開することができました。2日目に行われた各グループによる発表会は、実習の成果を共有する良い機会となりました。

また、地域視察では、令和2年7月豪雨で甚大な被害を受けた大和一酒造元とホテル サン人吉を訪問しました。当時の被災状況や、そこから立ち上がるまでの苦難、そして現在の復興状況について詳しくお話を伺うことができました。実習の詳細については、次頁以降にまとめています。



- 実習日程：2024年8月13日（火）、8月14日（水）
- 実習地域：上球磨地域（多良木町、湯前町、水上村、あさぎり町）、五木村
- 参加学生：熊本県医師修学資金貸与学生 … 18名
熊本大学医学部生（一般公募者）… 1名
自治医科大学医学部生（熊本県出身者）… 8名

▶ 実習スケジュール

【1日目】8月13日（火）

時間	行程	詳細
8:00～8:15	集 合・出 発	□ 熊本大学病院
8:30～10:30	移 動	🚗 熊本大学病院 → 球磨郡
10:30～12:10	講 話	□ 公立多良木病院 ①「人吉・球磨地域の医療提供体制について」 ～保健所の取り組み～ 人吉保健所 木脇 弘二 所長 ②「公立多良木病院について」 公立多良木病院 高森 啓史 院長
12:10～13:10	ランチミーティング	A班（水上村コース） B班（あさぎり町、多良木町、湯前町コース）
13:10～17:00	フィールドワーク	C班（あさぎり町、湯前町コース） D班（五木村、湯前町コース）
17:00～18:30	休 憩	
18:30～20:00	懇親会・意見交換会	□ ゆのまえ温泉 湯楽里「いちふさ」
20:00～22:00	全体発表会準備	
22:00	宿 泊	□ ゆのまえ温泉 湯楽里

【2日目】8月14日（水）

時間	行程	詳細
7:00	起 床・朝 食	
8:20	集 合	
8:30～8:50	移 動	🚗 宿泊施設 → 公立多良木病院
9:00～11:10	全体発表会	□ 公立多良木病院 （各班より実習の成果や考察等について発表）
11:20～11:50	移 動	🚗 公立多良木病院 → 昼食会場
12:00～13:00	ランチミーティング	□ リゾートホテル 華の荘
13:00～13:15	移 動	🚗 昼食会場 → 地域視察①
13:15～14:00	地域視察①	□ 令和2年度7月豪雨地域視察：大和一酒造元
14:00～14:10	移 動	🚗 地域視察① → 地域視察②
14:10～15:10	地域視察②	□ 令和2年度7月豪雨地域視察：ホテル サン人吉
15:15～17:00	移 動	🚗 人吉市 → 熊本大学病院
17:00	帰 着・解 散	熊本大学病院

▶ 参加者及び協力機関等

※敬称略

参加学生	
熊本大学医学部	5年 中島 史人、山口 真子
	4年 岡本 健太郎、永野 七海、増永 菜央、福田 真也
	2年 田中 遥子、酒井 真琴、山口 竜蔵、末永 義博、下川 真奈、西田 智哉、 西山 泰生、荒川 彩乃、鈴木 竜太
	1年 松村 洸希、山田 華奈、村田 英利佳
琉球大学医学部	5年 緒方 紫音
自治医科大学 （熊本県出身者）	5年 橋本 和旺、加藤 綺美 4年 松川 朋樹、萩尾 悠生
	3年 前川 祐貴、大津 秀帆 1年 田形 賢志朗、松永 彩花

スタッフ	
熊本大学病院	<地域医療支援センター> センター長 松井 邦彦（総合診療科 教授） 特任助教 高柳 宏史、堤 龍子 コーディネーター 無田 英昭、川添 光芳、原田 淳子 事務補佐員 横手 友紀子
	<地域医療・総合診療実践学寄附講座> 特任准教授 荒木 智 特任助教 佐土原 道人、北村 泰斗 事務補佐員 山並 美緒、木口 知佳子
外部講師	<総合診療科> 医員 松田 圭史
	<熊本県> へき地医療支援機構 専任担当官 小山 耕太（くまもと県北病院 総合診療科） <熊本大学病院 総合診療科 医局員> 空田 健一（湯島へき地診療所 所長） 松岡 隼平（阿蘇医療センター 内科） 下地 徹（天草市立河浦病院 総合診療科）

実習協力機関等（懇談会参加者含む）	
熊本県へき地医療 医師の会	会長 片岡 恵一郎（小国公立病院） 脇田 富雄（上天草総合病院） 田浦 尚宏（人吉医療センター）
多良木町	町長 吉瀬 浩一郎 住民ほけん課 課長 竹下 政孝
湯前町	町長 長谷 和人 保健福祉課 課長 高木 堅介
水上村	村長 中嶽 弘継 保健福祉課 課長 幸野 一樹
あさぎり町	町長 北口 俊朗 健康推進課 課長補佐 桑原 雄一郎 健康推進課 主幹 向坂 香織 健康推進課 主幹 犬童 敦是
球磨郡公立 多良木病院	企業長 高森 啓史 副企業長 稲田 啓介 循環器科 部長 末田 大輔 内科・総合診療科医長 兼 槻木診療所 所長 永田 洋介* 内科・総合診療科 辻本 一真*、井村 麻由子* 外科医長 大山 真英*
人吉医療センター	総合診療科 宮野 遼太郎* 臨床研修医 岩井 秋子*

*…地域枠医師・自治医卒医師

協力施設及びご協力いただいた皆さま	
行政関係	多良木町、湯前町、水上村、あさぎり町、五木村、人吉保健所
医療機関	球磨郡医師会、球磨郡公立多良木病院、同心会 古城クリニック、誠心会 東病院、五木村診療所
高齢者福祉・ 健康づくり関係	特別養護老人ホーム 桜の里、特別養護老人ホーム 福寿荘、 高齢者生活福祉センター 湯愛、高齢者向け住宅 ゆのまえ美空、 健幸運動教室（ヘルシーランド）
地域振興・ まちづくり関係	水上サクラヴィレッジ、物産会 水の上の市場、 一般財団法人 たらぎまちづくり推進機構、湯前まんが図書館・ユノカフェ
災害復興	大和一酒造元、ホテル サン人吉、人吉温泉観光協会
その他	ゆのまえ温泉 湯楽里、ふきのとう、まつ藤、ビザピノ、リゾートホテル 華の荘、 熊本電気鉄道、（株）TaKuRoo 人吉営業所、近畿日本ツーリスト

2-1. グループワーク

参加学生は訪問地域ごとにA～Dの4班に分かれてグループワークを行い、事前学習からフィールドワーク、全体発表まで一貫してメンバーと協力して実習に取り組みました。

実習1日目のフィールドワークでは、今回、訪問施設を大きく4つの分類（① 医療機関、② 高齢者福祉施設、③ 健康づくり関係施設、④ 地域振興・まちづくり関係施設）に分けて行いました。各施設のご協力のもと、有意義なフィールドワークを行うことができました。

また、実習2日目には、事前学習でリサーチや考察した内容、本実習により学んだことや成果、また、学習の中で見えてきた地域の抱える課題やそれに対する解決策を各班で取りまとめて発表を行いました。各班の活動詳細については、次頁以降にまとめています。

▶ フィールドワーク

訪問地域	訪問施設
<u>A班</u> 水上村	① 同心会 古城クリニック ② 特別養護老人ホーム「桜の里」 ③ 生涯スポーツ施設 水上サクラヴィレッジ ④ 物産館 水の上の市場
<u>B班</u> あさぎり町、多良木町 湯前町	① 誠心会 東病院 ② 特別養護老人ホーム「福寿荘」 ③ 健幸運動教室 ④ 一般財団法人 たらぎまちづくり推進機構
<u>C班</u> あさぎり町、湯前町	① 誠心会 東病院 ② 高齢者生活福祉センター「湯愛」 ③ 健幸運動教室 ④ 湯前まんが図書館・ユノカフェ
<u>D班</u> 五木村、湯前町	① 五木村診療所 ② サービス付き高齢者向け住宅「ゆのまえ美空」 ③ ※移動距離及び時間の都合により施設③への訪問なし。 ④ 五木村役場

A 班：水上村

中島 史人（班長）、永野 七海、大津 秀帆、西山 泰生、山口 竜蔵



行程

13：30～14：10	特別養護老人ホーム「桜の里」
14：20～15：00	同心会 古城クリニック
15：15～15：55	生涯スポーツ施設 水上サクラヴィレッジ
16：05～16：35	物産館 水の上の市場

特別養護老人ホーム 桜の里

特別養護老人ホーム「桜の里」事務主任 多田様より、施設内をご案内いただきながら概要等について詳細にご説明いただきました。



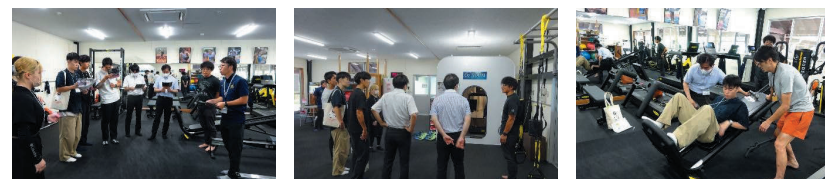
同心会 古城クリニック

院内の機材や設備等を見学させていただいた後、古城クリニック院長 猪山先生より、地域の病症の傾向や健康促進の取組み等についてお話をいただきました。



生涯スポーツ施設 水上サクラヴィレッジ

水上サクラヴィレッジのスタッフより、施設の概要や利用状況、設置されている運動設備等を説明いただき、実際に体験させていただきました。



物産館 水の上の市場

物産館 水の上の市場では、物産館で販売している地元の食材や地元の方の手作り商品等を見学した後、隣接する市房ダム湖の見学を行いました。



B 班：あさぎり町、多良木町、湯前町

加藤 綺美（班長）、福田 真也、萩尾 悠生、前川 祐貴、荒川 彩乃、田中 遥子、松村 洗希



行程

13：20～14：00	健幸運動教室（C班と合同）
14：10～14：50	誠心会 東病院（C班と合同）
15：05～15：45	一般財団法人 たらぎまちづくり推進機構
15：55～16：35	特別養護老人ホーム「福寿荘」

健幸運動教室

健幸運動教室のスタッフより、施設や設置している健康器具の説明をいただいた後、健康測定器具の体験をさせていただきました。



誠心会 東病院

東病院 事務局長 中川様より、病院の概要についてご説明いただいた後、院内や併設する通所リハビリテーションの各所を巡り、機材や設備等も詳しくご説明いただきました。



一般財団法人 たらぎまちづくり推進機構

たらぎまちづくり推進機構 代表理事 明石様より、機構の概要や多良木町の目指す「持続可能なまちづくり」の実現に向けた取り組み等について詳しくお話いただきました。



特別養護老人ホーム 福寿荘

特別養護老人ホーム「福寿荘」施設長 樋口様より、入所者の利用スペースや設備等をご説明いただきながら見学した後、施設の概要や将来の構想等についてお話を伺いました。



C 班：あさぎり町、湯前町

橋本 和旺（班長）、緒方 紫音、増永 菜央、末永 義博、酒井 真琴、山田 華奈、田形 賢志朗



行程

13：20～14：00	健幸運動教室（B 班と合同）
14：10～14：50	誠心会 東病院（B 班と合同）
15：10～15：50	湯前まんが図書館・ユノカフェ
16：00～16：40	高齢者福祉センター「湯愛」

健幸運動教室

健幸運動教室のスタッフより、施設や設置している健康器具の説明をいただいた後、健康測定器具の体験をさせていただきました。



誠心会 東病院

東病院 事務局長 中川様より、病院の概要についてご説明いただいた後、院内や併設する通所リハビリテーションの各所を巡り、機材や設備等も詳しくご説明いただきました。



湯前まんが図書館・ユノカフェ

湯前まんが図書館・ユノカフェの館内を見学させていただきました。熊本県ゆかりの作品等、数多くの漫画作品が所蔵されており、これらを活用した地域活性の取り組みを知ることができました。



高齢者生活福祉センター 湯愛

高齢者生活福祉センター「湯愛」 介護事業課長 税所様、椎葉様より、入所者の利用スペースや設備等をご説明いただきながら見学した後、施設の概要や入所者の健康づくり等についてお話いただきました。



D 班：五木村、湯前町

山口 真子（班長）、岡本 健太郎、松川 朋樹、下川 真奈、西田 智哉、
松永 彩花、村田 英利佳、鈴木 竜太



行程

14:00～14:40	五木村診療所
14:50～15:30	五木村役場
16:30～17:00	サービス付き高齢者向け住宅 ゆのまえ美空

■ 五木村診療所

五木村診療所の田浦所長、宮野医師より、地域の患者の傾向や限られた設備の中での医療の提供状況、地域での診療所の役割や五木村診療所の歴史等についてお話をいただきました。



■ 五木村役場

五木村役場のダム対策課 土肥課長より、地域と川辺川ダムの建設を巡る歴史や振興計画等についてお話をいただきました。また、五木村を活動拠点に地域活性化事業等に取り組まれている株式会社日添取締役 土屋様より、事業内容と五木村の魅力等について詳しくお話をいただきました。



■ サービス付き高齢者向け住宅 ゆのまえ美空

医療法人八紘会 理事長 園田様より、施設の概要や関連施設との連携について紹介映像を交えながら説明いただいた後、入所者の方の利用スペース（部屋、設備等）をご案内いただきました。



▶ 全体発表会

発表会場に球磨郡公立多良木病院 会議室をお借りして、参加学生による実習成果の全体発表会を行いました。この発表会では、事前学習でリサーチ、考察した内容、本実習により学んだことや成果、学習の中で見てきた地域の抱える課題やそれに対する解決策を各班で取りまとめて発表を行いました。

各班の発表後には、他の班の学生や随行スタッフだけでなく、同席いただいた多良木病院 高森院長、自治体担当者等からも多くの質問や意見が寄せられ、活発な議論が展開されました。

最後に本実習の主催者を代表して松井センター長より、全体発表会及び今回の夏季実習について講評をいただきました。



— 各班の発表資料 —

■ A 班



講話で分かったこと

- ・ 昨日の木脇先生の講話では地域医療構想などの意義や情報共有の大切さ、高森先生の講話では多良木病院の役割、地域医療で今後求められることを学びました。
- ・ 高森先生には「地域医療の面白さを感じて欲しい」とのお言葉を頂き、フィールドワークのテーマとなりました。

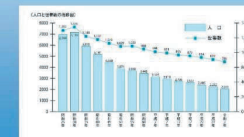
水上村について事前学習で分かったこと

- ・ 水上村は熊本県の東南端、宮崎との県境に位置する豊かな水と緑に育まれた村で、四季折々の表情が楽しめます。



水上村について事前学習で分かったこと

- ・ 人口、世帯数ともに減少傾向であり、令和2年度の人口は2033人となっています。
- ・ 2019年のデータでは男性80.6歳、女性87.6歳と全国平均より長寿で熊本県平均(男81.2、女87.5)より若干低い。



A班 主な訪問先



A班 行程

時間	内容
13:30-13:45	集合
13:45-14:15	バス 内子山荘(バス停) 内子山荘(バス停) 内子山荘(バス停)
14:15-14:30	解散
14:30-15:00	バス 内子山荘(バス停) 内子山荘(バス停) 内子山荘(バス停)
15:00-15:15	解散
15:15-15:30	バス 内子山荘(バス停) 内子山荘(バス停) 内子山荘(バス停)
15:30-15:45	解散
15:45-16:00	バス 内子山荘(バス停) 内子山荘(バス停) 内子山荘(バス停)
16:00-16:15	解散

①桜の里

- ・ 桜の里は特別養護老人ホームの形態をとっている。
- ・ グループホーム、ショートステイ、地域密着型特別養護老人ホームが併設している。



桜の里 ↑

②同心会 古城クリニック

- ・ 水上村岩野石原にある。
- ・ 桜の里に隣接している。
- ・ 老人ホームと同様に木造でとても温かみのある内装だった。
- ・ 発熱患者の診察室がなく緊急の場合は胃カメラをする部屋で代用していた。



③水上サクラヴィレッジ

国内の様々なスポーツチームから、年間1万人が合宿で使用する
とともに、地域住民が体を動かす場としても賑わう、運動の
拠点！



④水の上の市場

水上村の地元の野菜やお酒が並ぶ小さな物産館。
奥には、市房ダムの上に浮かぶ500円の大噴水！



結論・考察・感想

- 水上村の介護サービスについて、
様々な形態を学習しながら、その実態を目で見て学べた。
- 水上村は熊本市より平均寿命が短いと事前学習したが、
入居者には105歳の人居者もいた。長寿。
- ほぼ全て、木造の温かみを感じられる建物だったのが
非常に印象的だった。



地域の課題と提言

課題1：患者の数と病院経営

〈それに対する解決策〉

- 患者の数が少ないと経営難に陥るが、逆に多いと医師にかかる負担が大きくなり、提供できる医療の質が低下する
- 過疎地域では医療施設の数が減り患者が集中する傾向にあるが、いくつかの医療施設で患者を分担し、経営難に至らない程度の数を保つ。

課題2：噴水の時間が長く、変化に乏しい。シュール

〈それに対する解決策〉

- 水に近づける橋の復旧
- BGMの変更



地域の課題と提言

課題3：介護施設における、災害時の施設利用者の移動

〈それに対する解決策〉

- 近隣住人に呼びかけて、できるだけ素早く移動させる
そのために、普段から地域住民との交流を深めておく
- 定期的な避難訓練
- 上の階では入居者の数を減らす



夏季地域医療特別実習「肥後狂句」

第1編
えいくろた スライド作成 進まねい

第2編
のさつとる ロールモデルが すぐそばに



謝辞

短い時間ではありましたが、
水上村での体験はとても貴重なものでした。
皆様ありがとうございました。



■ B 班 2024年度夏季地域医療特別実習 成果発表  B班 多良木町・あさぎ町・湯前町 加藤綺美 榎田真也 萩尾悠生 前川祐貴 荒川彩乃 田中道子 松村洪希	事前学習や保健所の講話で分かったこと ・ 少子高齢化、人材不足、地域の中でも医療の偏り、周産期医療不足、高齢者が外来に自力でこれないことが課題。病床数を減らす政策→行政と現場のずれの違い。 ・ 地区の特徴的な取り組み：健康教室、公立多良木病院の上球磨地域包括支援センター																				
B班 主な訪問先 	B班 行程 <table border="1"> <thead> <tr> <th>時間</th> <th>行程</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>13: 10~13: 20</td> <td>移動</td> </tr> <tr> <td>13: 20~14: 00</td> <td>移動</td> </tr> <tr> <td>14: 00~14: 10</td> <td>移動</td> </tr> <tr> <td>14: 10~14: 50</td> <td>移動</td> </tr> <tr> <td>14: 50~15: 00</td> <td>移動</td> </tr> <tr> <td>15: 00~15: 10</td> <td>移動</td> </tr> <tr> <td>15: 10~15: 20</td> <td>移動</td> </tr> <tr> <td>15: 20~15: 30</td> <td>移動</td> </tr> <tr> <td>15: 30~15: 40</td> <td>移動</td> </tr> </tbody> </table>	時間	行程	13: 10~13: 20	移動	13: 20~14: 00	移動	14: 00~14: 10	移動	14: 10~14: 50	移動	14: 50~15: 00	移動	15: 00~15: 10	移動	15: 10~15: 20	移動	15: 20~15: 30	移動	15: 30~15: 40	移動
時間	行程																				
13: 10~13: 20	移動																				
13: 20~14: 00	移動																				
14: 00~14: 10	移動																				
14: 10~14: 50	移動																				
14: 50~15: 00	移動																				
15: 00~15: 10	移動																				
15: 10~15: 20	移動																				
15: 20~15: 30	移動																				
15: 30~15: 40	移動																				
B班の昼ごはん！！  和風レストラン 『まっ藤』 ・ 昼ご飯 ・ ポリウムタップ ・ リ 味は、とてもおいしく、ご飯が足りませんでした！！！！	健幸運動教室  健康寿命を伸ばすため、筋力を維持、向上するために筋トレや運動を行う。 地域の交流の場にもなっている。																				
東病院  地域なのに内視鏡、レントゲン、CTの設備があるのが意外だった。 どこまで診るか、検査するかが悩みどころ。	T_Lab. たらぎちいきづくり推進機構  スーパーをリノベーションしており、広くて開放感がありました！ ふるさと納税の返礼品の多さに驚きました！！																				

未来の福寿荘構想



ChatGPTを利用して10億円以内で熊本の木材を使った未来の福寿荘を構想していた。

利用者さんの寝起きを記録して管理できるロボットベッドを導入されていた。

地域の課題と提言

課題1：高齢者が自力で外来に来れない
それに対する解決策
・地域で運営するタクシーやバスで送迎
・訪問診療やオンライン診療、最新技術を用いた遠隔診療、デジタル医療MaaS

課題2：人材不足と資源不足
それに対する解決策
・AIをうまく活用して負担を減らす
・海外からの外国人技能実習生を受け入れる（経済格差が埋まってきているためその増しのぎの解決策かもし...）
・多良木の将来を担う可能性のある子供たちへの教育・起業家への支援

課題3：少子高齢化
・子育て支援
・地域おこしの一環として、プログラミングなどの体験活動の一部負担
・日常動作やADLを維持、改善

結論・考察・感想・謝辞など

- ・実習を通じて、地域の問題点や現状を現場の目線で知ることができた。
- ・事前学習と実際に体験したこととの違いとして、東病院のリハビリサービスでは20～30代の若い方が中心になって地域で活躍されていることが意外だった。
- ・少子高齢化のグラフを見た際に、全国平均と比べて上陸地域域の減少率の顕著さに驚いた。
- ・行政の期待に添えている「たらぎちいきまづくり推進機構」の地元を持ち上げる意識と行動力の高さに感動した。
- ・福寿荘で仏間や静養室があったり地域ならではの特色ある設備が整えられているのが、地域住民に寄り添っていると感じた。
- ・この度はお忙しい中、このような実習の機会を設けてくださった上陸地域域の皆様、熊本大学の皆様、県職員の皆様、熊本県へき地医療医師の会の皆様、ご支援くださった皆様ありがとうございました。

夏季地域医療特別実習「肥後狂句」

第1編 なかたなか 他県には なかたなか

第2編 じやいよね 障眼法で うるんころん

第3編 えいくろた 上の句読んで 反省中

第4編 のさつとん 人言球座の 愛を知り

C 班

2024年度夏季地域医療特別実習 成果発表



C班（あさぎり町・湯前町）
グループメンバー名：
橋本和哉
榎方志貴
堀永寛央
酒井真尋
本永健博
山田基秀
田形賢志朗

C班 主な訪問先



C班 行程

時刻	内容	写真
10:10~12:00	昼食	
12:00~14:00	実習 ・あさぎり町・湯前町（あさぎり町・湯前町） ・あさぎり町・湯前町（あさぎり町・湯前町）	
14:00~16:10	昼食	
16:10~17:00	実習 ・あさぎり町・湯前町（あさぎり町・湯前町） ・あさぎり町・湯前町（あさぎり町・湯前町）	
17:00~18:00	昼食	
18:00~19:00	実習 ・あさぎり町・湯前町（あさぎり町・湯前町） ・あさぎり町・湯前町（あさぎり町・湯前町）	
19:00~20:00	実習 ・あさぎり町・湯前町（あさぎり町・湯前町） ・あさぎり町・湯前町（あさぎり町・湯前町）	
20:00~21:00	実習 ・あさぎり町・湯前町（あさぎり町・湯前町） ・あさぎり町・湯前町（あさぎり町・湯前町）	
21:00~22:00	実習 ・あさぎり町・湯前町（あさぎり町・湯前町） ・あさぎり町・湯前町（あさぎり町・湯前町）	

①健幸運動教室

「T-Well」を活用→健康管理アプリで健康状態を「見える化」

「楽しく」「お得に」「無理せず」

行動変容を促す「デジタル健康ポイント」



②誠心会 東病院



かかりつけのホームドクター

1階・外来 CT 内視鏡

2階・病棟 ナースステーション 談話室 介護浴室

3階・リハビリ



④高齢者生活福祉センター



デイサービス広い岩風呂あり

生活福祉センター—人部屋or二人部屋 夜は管理人が見守り



参加して感じた地域の課題と解決策

課題2：生活支援の問題

それに対する解決策

- ・ほのぼの号のサービス拡充
- ・ドローンなどを活用し生活の援助を行う。



夏季地域医療特別実習「肥後狂句」

曇れ川 日が照る炎暑 静かな なかたなか 資源のあるしこ できたしこ



③湯前まんが図書館・ユノカフェ



- ・小さめの建物だが、約3800冊の漫画があり無料で読み放題。
- ・併設のカフェもある。
- ・通勤には他にカフェがないため、このカフェには多くのお客さんが訪れる。
- ・漫画フェスタというイベントもあり、漫画を通した地域おこしが盛んである。

参加して感じた地域の課題と解決策

課題1：産婦人科医不足

それに対する解決策

- ・教育体制の拡充
- ・待遇の向上



参加して感じた地域の課題と解決策

課題3：アビールの仕方

それに対する解決策

- ・周知の仕方
- ・旅行者への呼びかけ
- ・他の観光地を訪れた人に協賛割引券を配布



ご清聴
ありがとうございます



■ D 班



事前学習や保健所の講話で分かったこと

五木村
 ・高齢化率48.2% (県内2位)
 ・人口 931人 令和2年
 ・五木村診療所 30人/日



球磨医療圏

- ・二次医療圏の面積 県2位の広さ
- ・分娩取り扱い医師偏在指標：全国最下位
- ・高齢化率の上昇に伴い、サ高生の需要が高い
- ・入院外来需要は2015年以前に既にピークを迎えている
- ・60歳以上の医師の割合が県内で最高位

D班 主な訪問先



D班 行程

時間	行程	訪問先
13:10~14:00	移動	
14:00~14:40	見学	西条徳隆 ・五木村診療所 緑旗道五木村庁舎2027-11
14:40~14:50	移動	
14:50~15:30	見学	徳川徳隆・まちづくり訪問施設 ・五木村のわらわり(五木村役場) 緑旗道五木村庁舎2027-7
15:30~16:30		
16:30~17:00	見学	高知市立病院 緑旗道・訪問施設 ・サービスステーション高知市役所住宅「ゆのまち美里」 緑旗道高知市役所2009-3
17:00~17:10	移動	

フィールドワークでの成果など

- 車文化**
- ① 国産バザールにより、国産の自動車市場が伸びていった。
 - ② 国産が伸びていくなかで、輸入車は高級セグメントで分け、八代まで1種類ほどしかなかった。海外の競争能力が乏しすぎる。
 - ③ 1960年代の国産設備が良くなる。海外での土地買収がスリがある
 - ④ 国産より輸入車に上り乗る機会（別：ワークショップ、共同で出した車などの材料共有、顧客の要求も共有）
 - ⑤ 医療へのインフラ整備（マイクロスコープ、タングリー）があり、基本手術への対応ができる
- 
- ⑥ 生産調整において1台のバリエーション、高い潤い率と高価格によって大変なところがある
 - ⑦ 性能向上の競争が激しい
 - ⑧ 性能向上の競争が激しい（競争を促す要素が少くない）ため、確実な高品質と信頼性がかなり重要
- ⑨ 日本企業に比べて海外企業と品質の差が縮小してきた
- 国産の自動車**



地域の課題と提言

- 課題1：人口減少・少子高齢化に伴う雇用の人手不足
▶地域の特性を生かした株式会社日添のさらなる成長

課題2：独居の高齢者の増加

- ▶サービス付き高齢者住宅、特別養護老人ホームの充実
〔経済的負担が大きい（14~15万）という課題もある〕
▶買い物等の生活支援の実施

課題3：不便な交通アクセス

- ・現在は産交バスが人吉-五木村中心部を結ぶが、今後廃止の可能性もある。
 - ・五木村には集落が50ほどあり、不十分
 - ・コミュニティバスの運用が行われている。
- 



▶バス（民間と自治体の協力）を充実させる。

結論・考察・感想

- 病院医床は少子高齢化や人口減少が課題となっており、五木村は顕著であった。
- 五木村診療所は村内唯一の診療所として、自治医大の若き医師が地域住民の健康に寄与していた。
- 五木村では、数々の課題に対して、村の地域住民だけでなく、民間企業や村外の人々も巻き込んだ町おこしに尽力されていた。
- ほとんどのメンバーが五木村・湯前町を初めて来訪することになった。地味に赴き、地域を知り、地域を愛するこの大切さを強く実感した。



夏季地域医療特別実習「肥後狂句」

- 第1編 のさっとる エピフライから
ハンバーグ



- 第2編 やおいかん 造るつくらぬ
川辺川

- 第3編 うろんころん せずとも五木
まるわかり

ご清聴ありがとうございました

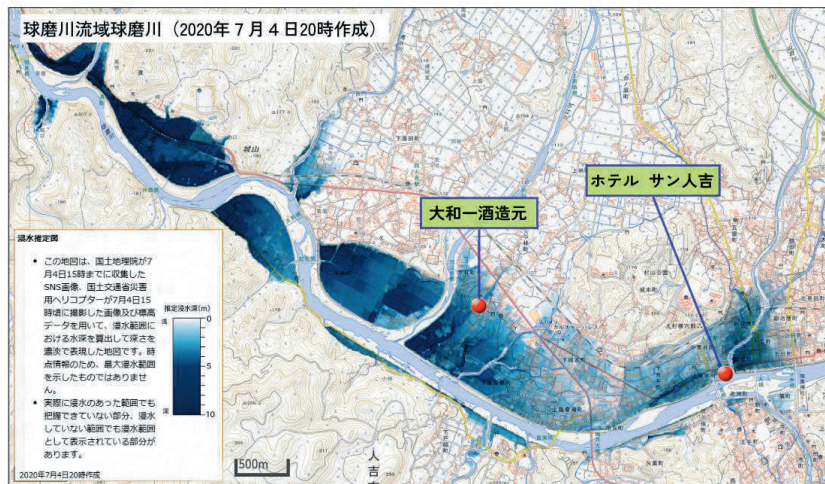
2-2. 地域視察

▶ 令和2年7月豪雨地域視察

地域視察では、令和2年7月豪雨により甚大な被害に見舞われた人吉市内を訪問しました。

令和2年7月、九州地方を中心に降り続いた大雨は各地に甚大な被害をもたらしました。今回の実習地域を流れる球磨川においても、7月3日から4日にかけて1時間雨量30mmを超える激しい雨が襲いました。球磨川流域では、土砂災害や河川の氾濫などを引き起こし、流域一円に大きな影響を与えました。

この度、豪雨により甚大な被害を受けた「大和一酒造元」、「ホテル サン人吉」の2施設から、当時の状況について、写真や現地説明を交えながらご説明いただきました。また、その経験を踏まえた対策や復興への強い意志をお聞かせいただきました。



出典：国土地理院ウェブサイト

令和2年7月3日から大雨による浸水推定図 球磨川水系球磨川5（国土地理院）を加工して作成

▶ 大和一酒造元

大和一酒造元 下田社長より、写真や映像、気象情報等を交えながら当時の状況と心境、今回の経験を踏まえた防災対策や、復興への取り組み等についてお話しくださしました。その後、浸水の被害にあった酒蔵を見学し、災害から伝統のお酒を守るための工夫をご説明いただきました。



▶ ホテル サン人吉

ホテル サン人吉 村田社長より、ホテルの建物に残る爪痕や、そばを流れる球磨川の様子を見学しながら、当時の状況について詳しくご説明いただきました。また、ホテル再開に至るまでの歩みや、被災を受けて開始したSDGsの取り組みについてもお話いただきました。



2-3. 夏季実習の様子

■ 講話：球磨郡公立多良木病院

球磨郡公立多良木病院に会場をお借りして講話を行いました。

熊本県人吉保健所長 木協先生から、「人吉・球磨地域の医療提供体制について～保健所の取り組み～」と題して、保健所の役割や、球磨圏域の医療の特徴等についてご講演いただきました。



また、球磨郡公立多良木病院企業団企業長（院長）高森先生からは、「球磨郡公立多良木病院のご紹介」と題して、地域住民へ向けた健康促進の取り組みや、多良木病院独自で取り組まれている「在宅医療サポートの家」等についてお話いただきました。



■ ランチミーティング

フィールドワークに先駆けて、各班に分かれランチミーティングを行いました。スケジュール確認や役割分担、質問内容等の確認を行いながら昼食をとり、メンバー間で親睦を深めました。



■ 懇談会・意見交換会：ゆのまえ温泉 湯楽里

ゆのまえ温泉 湯楽里に会場を設け、実習の実施にあたりお世話になった関係者の皆さまをお招きしたの懇談会・意見交換会を行いました。

ご出席いただいた各町村長様、熊本県へき地医療医師の会 片岡会長、公立多良木病院 高森院長等から、学生に向けて激励の言葉をいただきました。

また、学生によるフォトボイスの発表や、熊本県医師修学資金貸与学生及び自治医科大学の代表学生による挨拶も行われました。学生は町村長をはじめとする自治体関係者や、地域の先輩医師と積極的に会話を交わし、交流を深めました。



令和6年度 夏季地域医療特別実習 懇談会・意見交換会



開会挨拶
松井センター長



来賓挨拶
多良木町長 吉瀬様



来賓挨拶
熊本県へき地医療医師の会 片岡会長



来賓挨拶
公立多良木病院 高森院長



来賓挨拶
湯前町長 長谷様

懇談会・意見交換会



来賓挨拶
あさぎり町長 北口様

懇談会・意見交換会



来賓挨拶
水上村長 中嶽様



学生代表挨拶
熊本大学生



学生代表挨拶
自治医科大学学生



閉会の挨拶
熊本県へき地医療支援機構
専任担当官 小山先生



フォトボイス 発表スライド



2-4. 夏季実習の評価と振り返り

【実施目的】

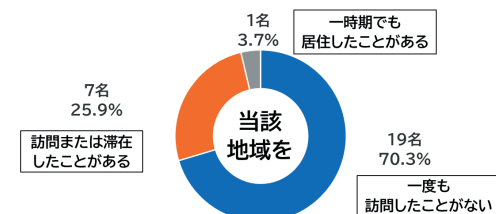
- 夏季地域医療特別実習の教育的効果と「地域を知る」ことができたか検証
- アンケートに回答することによる参加者の自己省察の促進
- 今後の企画や運営の改善のための参考資料

【回答者の構成】

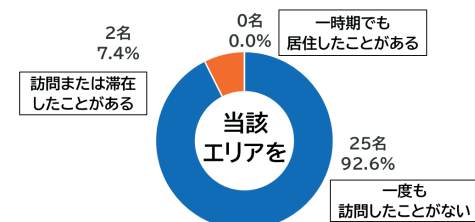
	1年	2年	3年	4年	5年	計
熊本大学	3	9		4	2	18
自治医科大学	2		2	2	2	8
琉球大学					1	1
計	5	9	2	6	5	27

～夏季実習に関するアンケート結果～

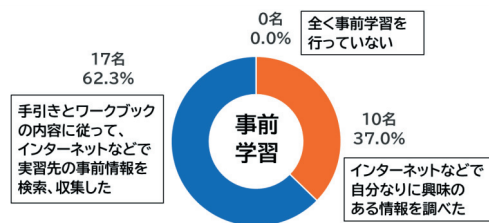
■ 今回実習を行った地域（上球磨地域・五木村 ※ただし人吉市は除く）へのこれまでの訪問状況について



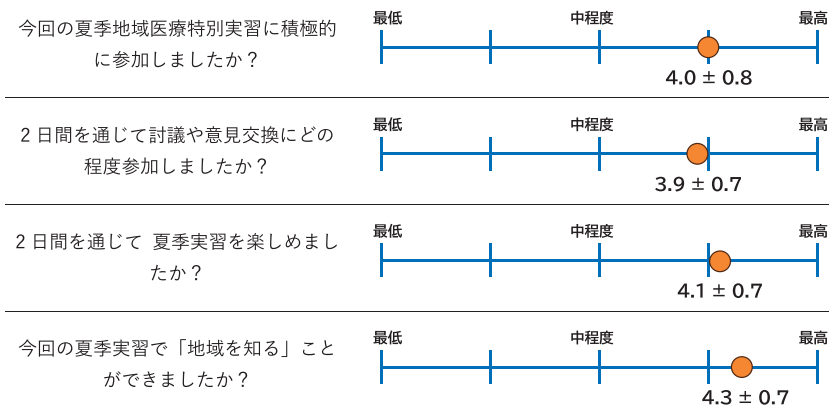
■ 自身がフィールドワークで訪れたエリアへのこれまでの訪問状況について



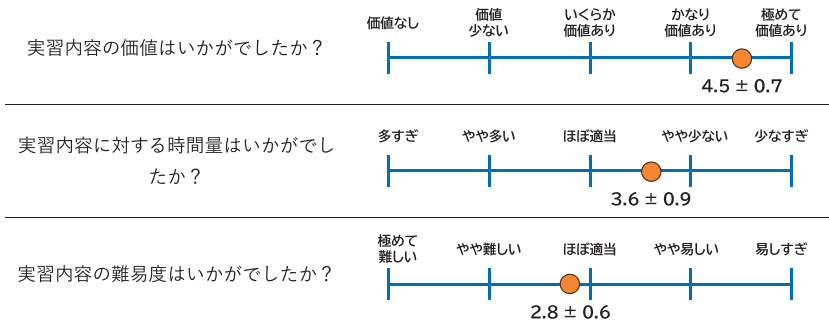
■ 事前学習について、当日、実習参加するまでの自身の状態について



■ 今回の夏季地域医療特別実習に参加した自己評価



■ 今回の夏季地域医療特別実習に対する全般的な評価



■ 今回の夏季実習全体にわたり「良かった」と思われること

- 地域の医療に関して詳しく知ることができた。また町おこしという観点についても学べた。その地域の院長さんと町長さんと貴重なお話をすることができた。
- 班での移動が多かったので他の大学の方との交流がかなり出来た
- 懇親会での交流
- 様々な形態のサービスを見学できた点
- 様々なところを回ることができ、広い分野を知ることができた。
- 地域の実態を肌で感じることができた
- 将来的に自分が関わる地域というものがどういふものかの理解をすることができたこと
- 多くの施設を見学できたこと
- 懇親会で地域の医師・先輩医師・町の職員など様々なフィールドの方と同じ場で交流できた点。
- 特別実習に数回しか参加したことのない身でいうのは恐縮ですが、今回はかなり前々から大まかな日程が知られていたため、遠方かつ大学のカリキュラムが異なる私はとても助かりました。また、下級生が多いのが逆に刺激になって、しっかりやり遂げようという気持ちに繋がったので良かったです。
- ネットで調べても知ることではできませんが、実際に訪れてみたことで、地域の雰囲気や地形、人々の暮らしなどを身を持って感じられたことが非常に良かったです。五木村の町おこしを積極的にされている株式会社があること、川辺川のダム問題など、この実習に参加しなければ関心を持つことが無かったのではないかと思います。また、懇親会では市町村の方々、地域で勤務されている先生方と交流ができ、コロナ禍で途絶え気味だった縦の繋がりを築く足掛かりを作れたことがよかったです。班活動を通して、自治医、熊大の他学年の子とも意見交換や交流ができ、この実習の意義を果たせたかなと思う。
- 地域にある病院だけでなく、特別養護老人ホームや地域振興まちづくり施設など、地域全体を活性化したり、地域独自の施設に訪問し、そこで働く方々の意見や考えを知ることができたこと。
- 学生にとっては地域医療というあまり良いイメージをもたない人が多いが、今回の実習を通して、地域における医療のあり方や高齢者と周囲の人との繋がりを知ることができた。特に、地域おこし協力隊の活躍を知り、地域を支える若い力を感じたことで、地域で暮らすことはマイナス面だけではないと思った。
- 祖母の家が今回の実習地域にあるため小さい頃から何度も訪れているが、医療体制であったり老人ホームだったり今まで踏み込んで知ることができなかった新しい情報をたくさん知れたのでとても良かった。まだまだ球磨地域の知らない魅力がたくさんあって、もっともっと知りたいと思った。
- 医療に関わる施設だけでなく地域のまちづくりに関わる場所も見学したり話を聞くことができたため、地域についても学ぶことができて良かったです。前回参加した冬期実習では地震時の医療体制を学びましたが、今回は水害時の地域を学び違うことを学べて良かったです。また、去年の冬期実習では介護施設を見学した際に利用者さんがいる場所には入ることができなかったが、今回は利用者さんの様子も見ることができたので良かったです。
- 卒後に自分が実際に働く可能性のある地域を1年生の夏という早い時期から見学することができたこと。
- インターネットでは知ることができないことを学べたこと

- 地域のことについて知ることができました。
- タイムスケジュールに沿ったタイムキーパーの誘導が適切だった
- 時間の少ない中で、どの講和の内容も充実していた。
- 1泊2日の短い時間で非常に充実したスケジュールが組まれていた点。
- 多くのことを学べた。
- 地域を多面的に知れる点
- 地域をみることができた。
- 地域で働かれている先輩方との交流ができたことがとても良かった。

■ 今回の夏季実習全体にわたり「芳しくなかった」と思われること

- 地域の楽しさに十分に触れることができなかった。
- 挨拶などで時間がなくなってしまったが、多良木病院内を見学したかったです
- 内容が多く時間がタイトであるため、事前学習や実習がおざなりになっていた。フィールドワークは2-3個でいいのではないかと。
- 男女で宿舎が違うのは結構問題だと思いました。お互い離れているためレポート作成などの話し合いを行いくかった。懇親会後にお風呂があったほうが女性の先生方の化粧などやセットを考慮すべき
- 時間がキツキツで事前に考えてきた質問をする時間があまりできなかった。
- スケジュールがタイトすぎて体力的にも精神的にも疲れ果ててしまった
- 日程がタイトな点
- スケジュールがタイトだった。スライド作成の時間が足りなかった。
- スライドの作成まで含めると少しスケジュールが忙しすぎたと思う
- 交流時間をもっと長く取る
- とにかく時間が少ないのと、男子の扱いが雑すぎる。
- 一つの訪問地あたりの時間が少なかった点
- もっと積極的に質問をしてもよかったかなと思った
- 発表を全部上級生に任せてしまったこと
- あと1日あればもっと質疑応答ができたなと思いました。班から離れて個人的に残って質問をしないといけない場面も多くありましたし、時間が押していると下級生が基本的事項に関する気軽な質問やフレッシュな質問をしにくいと思います。
- 五木村まで行くのに移動時間が長くて、あまり活動時間を充分に取れなかったり、かなり時間がオーバーしてしまったこと。
- 全体的にとっても良く、多くの学びがある内容でしたが、タイムスケジュールが少し窮屈だなと感じました。

- タイムスケジュールで、質問したいことがあっても、説明をしてくださった職員さんが早口でお話していて急いでいる様子が見て取れ、ここで質問したら時間をとらせてしまうと思い、躊躇した。また、実際にこの地域に住んでいらっしゃる方との交流が全くなかったので、住んでいる方の目線や魅力、問題点などを直接お聞きしたかった。
- 懇談会の前にお風呂の時間があり、女子学生は化粧をしなおしたりしていて大変だった。
- たくさん場所を見ることができたのはいい経験になったと思うが、ひとつの場所に滞在する時間が思ったよりも短くてもう少しゆっくり見たり詳しく話を聞きたかったと感じた。また、懇談会の時間が押したため、2日目の発表資料を班員全員で作成する時間があまりなくて苦労した。
- 夜ご飯の時間設定が短く、ずるずる長くなっていったこと
- お風呂後の懇談会だったこと。懇談会後の発表準備時間の制限があったこと。
- 特になし／特にありません。

■ 今回の開催時期、日程、日数についての意見

- お盆ではありましたが、行政の方々も積極的に参加してくださっていたのでありがたかったです。
- 中々みんなの予定が合う日は無い中、かなり多くの人が参加してくれたので良い日程だったと思う。
- 西医体が実習最終日の2日後に始まり、前日練習などを考えると少々きついなと感じました。ただ、他の方々の大会や行事などもあると思うので、概ね適切だったと思います。
- 西医体とギリギリ被っておらず参加できたので良かったです。日程は思っていた以上に密だったのももう少しゆとりがあると嬉しかったです。日数はちょうど良かったです。
- お盆期間は出来れば避けて欲しい
- スライド作成と自由時間で+1日あってもよいかなと思った。
- 一泊二日は短い
- 日数が足りないせいでスケジュールが逼迫している。
- お盆の時期だと、費用が高いのではないかと
- 今回はお盆の時期だったのももう少しオフシーズンにあってもいいかなと思った
- お盆時期の開催にやや不安を感じていましたが、いざ実習が近くなると特に支障はありませんでした。日程、日数共に非常に満足しています。
- 同じ時期、日程、日数がいいです
- コンパクトでよい
- 日程と日数は問題ないが私としては西医体の直前だったので少しきつさを感じた
- ちょうど良かった。／ちょうど良い（2）
- 適切（2）

■ 「夏季地域医療特別実習の手引きとワークブック」についての意見

- 助かりました
- 事前学習の際に書き込むので、当日紙媒体でいただいても無意味である。事前の PDF ファイルのみの共有でもいいと思った。
- 事前に紙媒体でもらえると、事前学習した内容がフィールドワーク中でも見やすいかなと思った
- 最初に PDF で配布され、そこに事前学習したことを書き込んでいたが、1 日目の朝に紙として配られ紙に書き込み直したので、もっと早くから紙で配布していただけるとありがたい。
- とても素晴らしい出来でした。作成者の方にはとても感謝しています。
- かしながら実習中にすべき課題(特にフォトボイス)などはもう少し強調して書いてほしい。
- 事前学習の際に役に立つ資料が乗っていたり、説明もしてあったので助かりました。紙媒体だけでなく PDF にしてあるのも良かったです。
- 共同で行える打ち合わせ・事前学習が約ひと月前のオンラインゼミのみなので不安もありましたが、その不安を解消してくれる丁寧で充実したワークブックでした。メールでの伝達だけでなく、ワークブック上に改めて各資料の QR を掲示していただいたのが非常に助かりました。
- 事前に紙媒体でも欲しい。
- 雛形などあり、使い勝手がよかったと感じました。
- 目次、メモ、QR コードなどが利用しやすいものであった
- データでも配られたので助かりました。
- 参考にするとういホームページのリンクなどを記載して頂いて、助かりました。
- カラー印刷で写真も多く、見やすかったです。
- 特にありません。各施設の場所や時間について事細かに書かれていて、わかりやすかったです。
- 分かりやすく作り込まれている
- わかりやすく、事前学習もしやすかった。
- よくまとめられている
- まとめられていてわかりやすかった
- 見やすかったです。
- 見やすいと思うが、ページの順番を工夫できるといった。
- よい（２）／十分

■ 「事前学習や課題」についての意見(事前に取り組んだ、取り組んだに係わらず)

- 勉強になりました
- 事前学習が大事だと思いました。
- 少し難しかった

- 実習の心構えができ、良かった。
- 必要な予備知識をつけることができた統計データの参照方法が難しく進まなかった
- 場所によってはあまり情報を得られないところがあり上手く学習できなかった
- 実際に行ったことがないところばかりだったので、どのように学習していいか少しだけわからないところがあった
- 調べるのは人口や出生数より、取り組みについてだけでいいと思う
- 事前学習で求められていた、平均寿命や喫煙率などなかなか調べるのが難しく、時間がかかった。
- 上球磨の医療について調べてたので、公立多良木病院の院長や保健所の方の話をすんなり理解することができた箇所があったこと
- 施設の下調べは行うことが出来たため実習中の活動に生かされた
- 湯前のこともあさぎりのことも、全体の球磨地域のことも調べないといけないので時間的負担は感じました。
- 事前学習はかなり量が多かったので、私の班では役割分担をして行いました。
- 班で分担して取り組めてよかった。
- 具体的にどの資料やホームページが参考になるかを明示してあったので、事前学習に取り組みやすかったです。
- 理念とか基本方針とかを調べたことで各施設でお話を聞く際にとてもスムーズに頭に入ってきた。
- 地域のホームページを調べるとだいたい出てくる内容だったので勉強しやすかったです。事前学習で疑問に思ったことや課題だと思ったことを、講義や訪問を通して学んだり解決策を聞いたので事前に勉強しておいて良かったと思いました。
- フィールドワーク訪問先に関する情報が場所によっては集めづらく、空欄を埋めることを諦めたものもありました。
- 事前学習することで実習での学びが深まった
- インターネットで調べると、県や国が出した資料があったため、事前学習に有効だった。
- 参考サイトが載っているのがありがたかった。おかげで調べやすかった。
- 今回は班員でワークブックの pdf を共有し、共同で書き込めるようにしました。事前学習の役割を分担することで一人一人が深く学習することが出来ましたし、それを共有して班員が同じ知識を得た状態で実習に臨めました。

■ 「フィールドワーク」という方法（地区視診、踏査、各所訪問）についての意見

- 現地での学びが深くてよかったです
- とてもためになった
- とにかくスケジュールがタイトでした。
- 実際に足を運ばないとできない経験を得た

- みて触れることができてよかった。
- 実際に外向くことで自分の目で地域の実態を見ることができた
- 百聞は一見にしかずであると思うので、とてもためになりました。
- 他の班の内容を発表会で知ることができ、擬似的に様々な場所について学べた。
- 施設や担当者より講話していただいた事で当事者の考えを直接聞くことが出来た
- 炎天下ではありましたがもっと歩きたかったです。
- もう少し自分の足で散策したかった
- もっと地域の街並みを見たかった。
- 五木村の集落なども回ってみたいかったです。もっと歩きたかったです。
- 様々な視点から地域について知ることが出来たため、地域の病院の取り組みだけでなく、高齢者福祉関連施設の中でもそれぞれ違いがあることを学べたのが良かった。
- 各所訪問においてはスムーズで、充実した時間だった。
- 地域の特性について楽しく知ることができて良かったです。
- 地区や環境をしっかりと見ることがあまり出来なかったので、次回は環境や自然についても学べるような機会があると嬉しいです。医療に関わるものだけでなく、たらぎちいきづくり推進機構といった行政や地域自体を学ぶことができたのは有難かったです。
- 大変充実した時間を過ごさせていただきました。ありがとうございました。
- 実際に目で見て耳で聴いて学べるため、机上の学習と相乗して非常に有用。
- 私の班は診療所、役場、サービス付き高齢者住宅と様々な施設の訪問ができました。遠くまでバスを走ってもらい、これまで訪れたことのない地域の視察ができました。タイムスケジュールが詰まっており移動と見学で手一杯だったので、踏査が物足りなかったように思います。ただ気温も高く長時間外にいるのはリスクを伴うので、兼ね合いが難しいという点も理解しております。
- とても良いと思いました。
- 特になし

■ 今後取り上げてもらいたい企画、内容、開催地域の希望など

- 主要病院も見学、各診療科についてのお話を聞きたいです
- スポーツ大会などがあるともっとみんなと仲良くなれるかなと思った
- せっかくなら時間を設けて公衆衛生の国試も解けばいいなと思いました。
- 地域医療に携わりながら子育てを頑張る女性医師と関われる実習に興味がある。実際にどのような1日を送っているのかを自分の目で見て、自分事として学びたい。
- 地域住民の方との交流
- 病院のメディカルの方々にお話を伺う機会を設けていただきたいです。

- 来年の開催も楽しみです。
- へき地医師の会もあるように、へき地の医療を担う医師の方々のお気持ちや熱意は実習を通してよく伝わっています。メディカルの方々とは地元で生まれ育った方なのか、なぜこの地で働くのか、メディカルの視点から医師に求めることは何なのかなどを知りたいです。
- 前回の夏期実習に参加できなかったので天草に行きたいです。
- 天草に行ってみたいです
- 特にありません。満足でした。
- 特にありません。(2) / 特になし (2)
- 下天草
- 甕島
- 山都町

■ 実習に参加した自身の成果について

○ 交流やコミュニケーション

・気晴らしやレクリエーション、レジャーとなった	3.7 ± 0.5
・同学年、他学年、他大学の医学生との交流の場になった	3.9 ± 0.4
・訪問先の関係者、地域住民と交流ができた	3.3 ± 0.7
・訪問先から歓迎されたと感じた	3.7 ± 0.5

○ 上球磨地域・五木村を知ることについて

・地域の魅力が伝わった	3.7 ± 0.5
・地理、地勢、風土が分かった	3.6 ± 0.5
・歴史・文化が分かった	3.3 ± 0.5
・暮らしや住まいの実情が分かった	3.5 ± 0.5
・地域の医療・福祉・介護・保健や社会の現状と将来像が分かった	3.8 ± 0.4
・実際に住んでみたいと思った	3.1 ± 0.8
・また、観光などで訪れたいと思った	3.4 ± 0.7
・地域の魅力が伝わった	3.7 ± 0.5

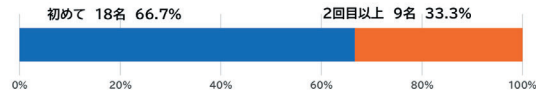
○ 医学生として、将来の医師として、医師像、働き方など

・将来の医師としてのキャリアを考える参考になった	3.8 ± 0.4
・将来の勤務するかもしれない地域の医療に携わる動機付けとなった	3.7 ± 0.4
・へき地、離島、医師不足地域で働く医師や医療人のロールモデルや好事例を見つけた	3.5 ± 0.5
・へき地、離島、医師不足地域で医師として働くのは大変さや苦労が分かった	3.7 ± 0.5

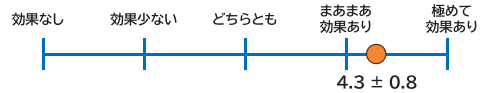
・へき地、離島、医師不足地域で医師として働くのはやりがいがあると思った	3.7 ± 0.5
・大学での授業や実習の学修内容のガイドや補強となった	3.7 ± 0.4
・地域医療学、社会医学、公衆衛生学などの医学的な知識の向上となった	3.6 ± 0.6
・地域医療学、社会医学、公衆衛生学などの分野に学術的な興味が湧いた	3.4 ± 0.6
・医学生でも訪問先の関係者や住民から期待されていることが分かった	3.8 ± 0.4
・医療人として係わることは、地域のエンパワメント（元気付け）につながる ことが分かった	3.7 ± 0.5
・訪問地域で、医師として仕事と生活を融合・両立できそうだった	3.4 ± 0.7
・将来、自分の専門分野にかかわらず地域医療に携わりたいと思った	3.6 ± 0.6

～フォトボイスに関するアンケート結果～

■ フォトボイスを作成するのは、初めてですか？



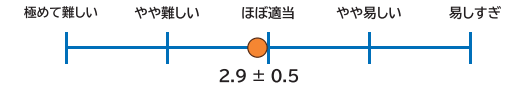
■ 実際にフォトボイスを行ってみて、地域医療に関する教育的な効果はいかがでしたか？



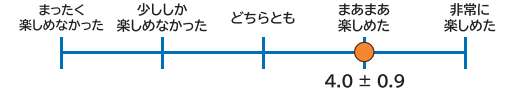
【それは、どのような点ですか？】

- 写真を見直す機会となった
- 作る時間が短かった インスタやLINEなどで簡素化出来るといいかも
- 写真を撮るように心がけることで地域の細かいところまで目がいくようになった
- バスの移動時間が長いので、その間精力的に外の観察に使えたのが良かったと思います。
- 写真を撮るために、地域に特徴的なものはないかなという目で探しながら活動ができた。
- 地域医療に関する写真を撮ろうと意識し、撮った写真にタイトルやコメントをつける上でもわかりやすく表現するために頭をひねった。
- 活動内容を振り返れたのは良かった。作成時間が短かったので、十分な振り返りにはならなかった。

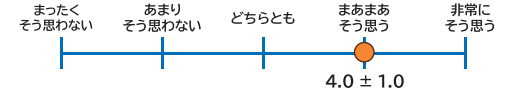
■ フォトボイスを実際に行ってみた難易度はいかがでしたか？



■ フォトボイスを楽しめましたか？



■ 作成することで、新たな気付きや発見につながると感じますか？

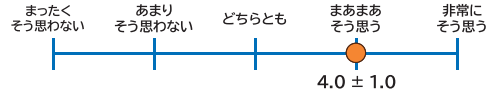


【それは、どのような点ですか？】

- 班員とその時の事について話し合えた
- 魅力を伝える視点で被写体を探した
- より詳細に景色や光景に目を向けるようになった点
- 経験を整理できるから
- フォトボイスを作る時間が少ないし、本来フォトボイスのために写真を取るというより撮った写真をアピールするためのもののような気がするから、もう少し改善の余地があると思う。
- 写真の吟味や写真を細かく見る機会ができ、また、復習として用いることができる点
- 普段見ないような細かいところに目がいくようになる
- いいところを探そうとする点
- 自分の中で印象に残っていることに気づける
- 写真を撮るために、地域に特徴的なものはないかなという目で探しながら活動ができた。
- 自分以外の班がどのような活動や風景を見たのか、端的に知ることが出来る点。
- タイトルなどをつける上で撮った写真がどのような写真かを考え直したから。
- 写真をよく見ることで写真を撮る時には見えてなかった部分に気付いて良かった。
- 写真から読み取れることを考えたりできるから。
- フィールドワークで訪れた場所の思い出にはなると思う。
- 言語化することで理解を深めることはできた

- のちに写真を見返して気づく特徴もあると考えるため。
- 学んだことの復習の意味合いが強かった。
- 振り返りができる点。

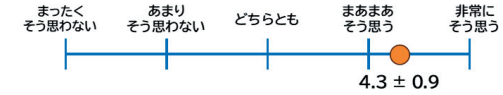
■ フォトボイスを作成した場面の深い洞察につながりましたか？



【それは、どのような点ですか？】

- 自分が学んでいなかったことを班員に教えてもらった
- 普段は目に入っただけでは考えないようなことまで考えることができる
- 魅力を伝える視点で被写体を探した
- 記憶に残りやすい点
- 自分でコメントを考えなければいけないという点
- 振り返りができる点。
- 心情を出来事と関連させることが出来から
- 時間が少なすぎて深くならなかった。
- 短い説明で写真の内容を理解できるようにする点
- 写真を撮影した時の記憶を思い返して、どのような情景であるかを振り返ることが出来たから
- 他の班が行かないフィールドの写真は責任感を持って撮ろうと思ったので。
- 写真を改めて見てボイスをつけるときに、考えを深められる点。
- ほかの班の発表を聞いて、なぜこの写真を撮ったのか、理由を考えることができる点。
- この写真が表している場面が地域医療とどう繋がっているかや、地域医療の問題点との関わりを考えた。
- 写真を撮った日時や場所を思い出しながら記録をつけることで記憶により深く残った。
- 写真を見返してどんなことをまなんだか振り返りができて、その後も学び直せるから。
- どちらかと言うと、思い出の記録に近い感じになったように思う。
- 持ち帰った写真から考えられることや他の人がどう感じたかを後で共有できるから
- 写真を撮るときは何気なく撮ったが、後に見返して復習やなお深い観察ができるから。
- スーパーを改装した施設の写真で、後から見てドアに「いらっしやいませ」の文字があることに気づけた。

■ 写真（フォト）と説明（ボイス）を組み合わせることは、相手に伝える上で効果的だと思いましたか？

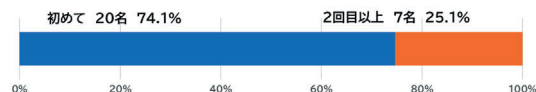


【それは、どのような点ですか？】

- わかりやすい
- 視覚的情報がより鮮明に見て取れるため受け手としても理解しやすいという点
- 漫画みただから
- ボイスをつけることで情報を伝えやすい。
- 視覚的に伝えることができ、背景の知識は言葉として伝えることができるから。
- その場の情景や雰囲気が伝わるから
- どこに着眼点を置いたかがわかるため
- 気軽に見れるので伝えやすい
- もっとのんびりやりたかった。
- 写真なので、視覚的に捉えられて見ている側も興味を持ちやすい。
- 写真に対してその人がどう感じたのかを共有することができるため。
- 写真だけではどんなふうに捉えられるか自由だが、ボイスをつけることで撮った人の意図がきちんと伝わる。
- 写真と文字の両方からの情報によってわかりやすく伝えることができる点。
- 写真だと、文字のみのスライドに比べて視覚的な情報が多い。写真と文字の組み合わせによって、より多くの情報を共有できると考えるため。
- 聞いていて楽しいから
- この写真を通して何を伝えたいのか説明することで、自分の中での思いや考えをまとめることに繋がるし、他の人にとっては新たな視点となって新たな気づきをえられる機会になるかもしれない点。
- 写真だけ、言葉だけでは分からないことがあるから。
- 他の班も楽しんでフィールドワークを行ったのだということが伝わってきた。
- 写真だけでなく、文字もある方が相手に伝わりやすいと思う。
- 写真のみ、説明のみよりも相乗効果で情報を伝えられる点。

～肥後狂句に関するアンケート結果～

■ 学校教育以外で、肥後狂句を作成するのは、初めてですか？



■ 短い定型詩（短歌、俳句、川柳）を特別に習ったことがありますか？



■ 実際に行って見て、地域医療に関する教育的な効果はいかがでしたか？



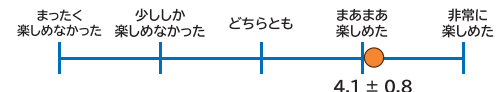
【それは、どのような点ですか？】

- 内容を振り返りつつ、熊本弁を用いて簡潔にまとめる練習ができるため。
- 知らなかった方言を知ることができた。
- 日頃使わない熊本弁を使うのは難しかった点。
- 熊本自体に対する知識が増えた点 ・ 振り返ることができる
- 楽しんで学びを振り返ることができる。
- 短文でまとめることで内容の吟味ができた
- 実習を振り返るいい機会だった
- 球磨地方の方言を知ることが出来るから
- 新聞のコーナーなどでしか目にしたことがないため、うまくできたのがわからない。
- 地域の言葉を知ることができた
- 熊本弁を用いてその日の活動を振り返ることで、改めて地域の良さや活動内容について見つめ直したため。
- 熊本の地域医療を表現するうえで、熊本弁を使っている肥後狂句は繋がりを感ぜられる。
- 熊本の言葉で地域で学んだことを表現出来たから。
- 地域医療に関するというよりも、球磨弁を織り交ぜるなどすることで、地域に触れることに繋がったと思う。

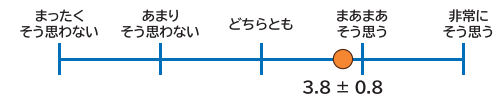
■ 肥後狂句を作成してみた難易度はいかがでしたか？



■ 肥後狂句作成を楽しめましたか？



■ 作成することで、新たな気付きや発見がありましたか？

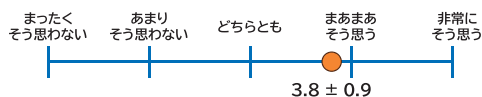


【それは、どのような点ですか？】

- 与えられた熊本弁を用いて班員と作成する中で、同じ活動を別の視点で考えられた点。
- どの場面を詠もうかなと考える時に記憶を辿ったときに記憶が蘇ってよかった。
- 他の班の肥後狂句を見るのは面白かったが、気付きや発見があったわけではなかったと思う。
- いいところを探そうとする点
- 実習の中での自分の心の動きに向き合うことが出来た
- 実習全体を振り返る機会になるから
- 振り返りができた
- 出来事を整理できる
- 人による。
- 思い返すことで気づきがあった。
- 熊本弁のことは知れたと思う。
- 実習を振り返ることで一回までは気づかないことにも気づけたから
- 地域の言葉の使い方が難しいなと思いました。
- 熊本出身だが熊本弁をあまり使わないので、初めて聞いた言葉が多く、難しかった。また最初の5音が決まっていることで考える部分が減っていいなと思っていたが、逆に7.5音に言いたいことを入れる難しさを知った。
- 熊本弁の方言をしくて良かったです。

- 同じ風景や状況にいる地元の方はこういう方言を心の中に想い描いているのだろうなということ
- 活動内容に関連させて想像を膨らませるため、より思い出を深く見つめ直すきっかけになるから。
- フィールドワークで学んだことをまとめるのには有用だったが、特に新たな気づき等は感じなかった。
- あまり実感ができませんでした。

■ 肥後狂句の題材として取り上げた場面や事例の深い洞察につながりましたか？



【それは、どのような点ですか？】

- 俳句を作るには、心情を読み取る必要がある
- 時間がないから深くない。
- 短い文で伝ええないといけなので要点を掴むことができる点
- 普段考えないようなことまでネットなどを用いて深く知ろうとすることができるから
- 記憶に残りやすい点
- 実習全体を振り返る機会になるから
- 提示された熊本弁、例えばうろんころんなどで、その日で「うろんころん」した体験を振り返ることが出来たため。
- 学んだことを短くまとめるために、どの場面をピックアップすべきかよく考えることができた。
- 深く活動内容を見直すことで、はじめて気付かされる学びがある点。
- 地域医療における魅力や問題点を肥後狂句で表現しようとし、わかりやすく字数も合う言葉がないかを考え、同じ事例でも言葉を変えることで印象が変わった。
- どの場面を詠もうかなと考える時に記憶を辿ったときに記憶が蘇ってよかった。
- 言葉が短いので深い意味は入れることが出来なかった。
- 身近な場面や事例(昼食等)を題材にしたため、深い洞察へと繋げることが大変難しかった。
- 方言を使うことで地域の人と思考を分かち合える
- あまり実感が湧きませんでした。

■ 肥後狂句で、方言の使用や地域に特化した題材を設定することは、地域医療を考える上で効果的だと思いますか？



【それは、どのような点ですか？】

- 地域に興味を持つ
- 方言と地域医療は少し論理の飛躍がすぎる。
- 地域の言葉で作るので地域との馴染みが深くなる点
- 知らない方言などをしれたから
- おもしろさがまず点
- その地域について伝えたいと思えた
- 住民の使う言葉を知ることに関心を持つことができるから
- 医療面の句は少なかったと思う
- 診療の際などにも地域の方が使われることもあるかもしれないので、知れてよかった。
- 今回まわった地域の良さを伝える上で、狂句が良い伝え方だったと感じたため。
- 地域との関わりを肥後狂句で表現するのはいいが、地域医療を表すのは難しい。
- その地域に馴染もうとする姿勢が重要だと思うから。
- 今はあまり使われておらず難しい点。
- 短い言葉や方言を使うことで身近に感じられると思った。
- 日常生活の中で、方言に触れる機会がなかなかない人もいるため、良い機会になったと思う。
- 地域の方が実際に感じていることを言語化する方言は、医療従事者と地元の方の相互理解を深めるのに役立つ
- 普段は使わない方言を学ぶこともできるため、地域医療においては非常に重要であるとする。
- 地域の人とコミュニケーションをとるために方言を知ることが必要不可欠だと思う。
- 私は熊本生まれ熊本育ちですが、上の世代の方々より熊本弁を使いこなせていないように思っています。今回で熊本弁の理解に繋がりましたし、上球磨地域に絞られた、より地域で生きる方言を学べました。

2－5. 夏季実習参加学生の感想

熊本大学 5年

達成度が非常に高い実習となった。まず、地域で勤務されている先生方、自治医、熊大の他学年の学生、市町村の方々と交流できたことが、非常に良い経験となった。

実際に訪れてみて、救急搬送の方法や、高齢化に伴う課題など事前学習での知識では知ることのできなかったことを身をもって知ることが出来た。今まで球磨地域に訪れたことが無かったけれど、今回の実習で色々な施設を訪れて、自然豊かでとても良いところだと実感し、是非また遊びに来たり、勤務先として選びたいと思った。

「地域みんなでチーム医療」と言われていたように、地域でのチーム医療の潤滑油のような医師になりたいと思った。

熊本大学 5年

今回の学習では球磨地方の地域医療について深く学ぶことができました。先生方の講話をはじめフィールドワークでは球磨地方、水上村の現状や動向を学ぶことができ、将来自分が働く時のイメージを描くことが出来、地域においては医療行為だけではなく、住民に寄り添うことも必要なのだと感じることができました。また地域医療の面白さに改めて気づく事ができ、非常に貴重な機会となりました。ありがとうございました。

琉球大学 5年

特別実習の学習面の達成度に関する事柄では、初日の一発目の人吉保健所の木脇先生の講義が総論的で二次医療圏全体についてだったので、知識の整理にもなったし、新しいことも知れたし、一、二年生の為にもなっていると感じました。その後の施設の導入にもなっていたので、組んでくださっ

た方にお礼を言いたいです。地域を「楽しむ」という点の達成度では、公人の方々がお盆なのにお時間を作ってくださったり、実際に美味しいものを食べて綺麗な景色を見ることで百点満点で楽しめたと思います。

自治医科大学 5年

今回の実習では上球磨地域の風土や医療の現状、水害からの復興などについて学びました。フィールドワークではあさぎり町、多良木町、湯前町を訪れ、どのような福祉や町づくり、健康への取り組みが行われているかを知ることができました。また、行く先々で地域の方々に歓迎されていることを実感し、この地域の医療に貢献したいという思いが一層増しました。多職種と連携し、自分の果たせる役割は何なのかを常に考え、バージョンアップしていけるような医師になりたいと思いました。

自治医科大学 5年

今回の夏季特別実習を通して将来熊本県に従事する医者として多くの地域の歴史と現状を学ぶ事ができた。この実習期間特に衝撃だったのは大和一酒造とホテルサン人吉での球磨川氾濫による実体験を元にしたお話だった。一級河川である球磨川氾濫の被害はそこに住む人々にとって甚大なものであり、そこからの復興の軌跡、困難、得たものの、失ったものを詳しく我々に説明していただき同じ熊本県民として改めて災害の怖さと地域の助け合い、連携の大切さを学ぶ事ができた。

熊本大学 4年

今回の実習において、事前学習に様々な資料を提示してくださり、それに基づいて深く上球磨地域について予習をすることができました。その中で、T-rab.や東病院さんでは、老若男女問わず、地域を活性化するために様々な職種の方が施設を立ち上げたり、積極的に働かれていることを学びました。

したがって、4施設を回るタイトなスケジュールでしたが、今回の実習において目標は達成できたと考えます。2日目の発表や地域の役場や病院の方々からの感想では、少子高齢化などの問題に立ち向かう医療人が求められているということを訴えられており、また、そのことは初日の実習でも感じる事が出来たので、地域医療に携わり、地域に根ざした医療を提供するだけでなく、地域の活性化を更に推進し、より活気に溢れたまちづくりに貢献した医師になりたいと考えました。

熊本大学 4年

地域に暮らす人たちが協力して健康長寿を目指している様子を拝見して都市部にはない地域ならではの人の暖かみを感じ、地域医療を楽しむという点では目標を達成できたと思う。実際に利用者にお話を聞けずに残念だが、どのように暮らしたいか、施設や職員との関わりをご本人がどう感じているかを今後学ぶ機会があることを期待したい。また、先生のご講話の中であった「どのような人生、バックグラウンドを歩んできたかを考えて」という言葉の通り、患者さんにはそれぞれの人生があるということを忘れずに向き合える医師が理想であると感じた。

熊本大学 4年

初めて訪れた上球磨地域だったが、地域医療は人・病だけでなく「社会」を見るという始まりの講話の内容に基づき、豪雨被害も併せて学ぶことで、上球磨地域を知ることができた。

今回は、病院に加え、特別養護老人ホーム等の福

祉施設や、地域住民や訪問者の健康増進施設にも訪問し、昨年参加した上天草地域での実習とはまた異なる視点で地域を見つめることができたと思感する。改めて、地域医療を担う医師には総合力が必要であると学び、その力を備えた医師が理想像である。

熊本大学 4年

今回の実習において、地域医療の現場におけるさまざまな課題や対応策を学び、患者さんやその家族、医療従事者間の密なコミュニケーションの重要性を実感しました。これを基に、地域に根ざした医療人として、患者さん一人ひとりに寄り添い、地域全体の健康を支える姿勢が求められると考えました。実習を通じて、多様なニーズに対応できる柔軟な思考と行動力、高い倫理観を備えた医療者にならないといけないのだと強く感じました。

自治医科大学 4年

今回の夏季地域医療特別実習では多良木、あさぎり、湯前で行われている活動や施設について深く知ることができた。達成度としては地域の特色やそこに住んでいる人々の生活を理解し、また、そこで働く方々の思いや目標を知ることができた。学んだこととしては、高齢化がすすんでいる地域でも、そこで行う取り組みを通じて活気を取り戻したり魅力を外部に発信することができる点である。このことを元に将来働く際には、僻地にいるからといって自分の活動が制限されているのではなく、むしろ自分たちや地域の人と活動を積極的に行い、よりよい地域にしていけることが重要であると考えていきたい。

自治医科大学 4年

1. 一般目標（地域を知り地域との関係性を構築する）という点で、今回の実習を通して球磨地方の現状を知ることが出来た。また行動目標

（地域の現状をさまざまな視点から知る、地域の課題の解決・改善策について発表する、学生間の交流を深める）についても同じく達成できたと思う。

2. 高齢社会において問題となる介護について、いずれの地域も施設やデイサービスを利用して対策していることが分かった。また慢性疾患の対応も求められる事が分かった。
3. ひととなりも医師に求められる資質だと感じた。卒業生や職員、地域佳人との良好なコミュニケーションに必要である。

自治医科大学 3年

今回の夏季地域特別実習では多良木町、あさぎり町、湯前町を巡ったが、各地域で地域住民の健康の推進のために多種多様な取り組みがなされていると実感した。実習前は少子高齢化等の暗い話題の多い地域というイメージがあったが、地域で実習を行うにつれ、地域の未来を作る試みがなされていることを知り、明るいイメージを持つことができた。このように偏見や固定観念を払うことができるという点も実際に地域に足を運んで実習を行うことの重要性につながると感じた。

自治医科大学 3年

- ① 夏季地域医療特別実習の達成度について：フィールドワークを含め、地域の現状を実感することができた。
- ② この実習で学んだこと：医師や高齢者が入居できる施設の不足や施設の職員の不足を実際に見て現実を改めて学ぶことができた。
- ③ これらをもとに、地域において求められる医療人としての理想像について考えたこと：患者だけでなく患者の家族も含めて診察を行うことがとても大事だと感じた。

熊本大学 2年

今回の夏季地域医療特別実習では、事前学習で自分たちの班が訪れる場所について十分な予備知識を得て、それを踏まえて実際に現地で関係者の方々から声を聞き、学びを深めることができました。インターネットや本で調べたり、ゼミで話を聞くのとは全く異なる、現地に足を運ばなければ得られない経験、学びを得ることができ、地域医療、僻地医療を肌で感じることができました。私たちも将来は地域医療に携わる医師として働くため、今回の実習を通してその姿をリアルに想像しながら、地域に貢献していく形を自分のこととして考えることができる機会となりました。現地では医療施設の数と患者の集中に関して、経営や医師の働き方の観点から様々な問題が生じているという、実際に現場でないといけないような課題を知ることもできました。しかしこのような課題があるなかで、根本にある考えとしては、片岡先生がおっしゃったように地域を知り、愛し、地域医療を楽しむ姿勢が大切であるということを再認識するとともに、これを医師として実践できるようにしたいと感じました。

熊本大学 2年

夏季地域医療特別実習では、その地域の病院などを実際に現地の人の立場になって学ぶことができたので医療の数字だけではわからない問題点や実情を知ることができました。

また、これからの発展計画など実際に伺ってみたいとわからないことを教えていただき、町おこしの楽しさを知ることができました。

また、実際に観光を行える機会がなかったので、また夏休みの間に五木村にいき、バンジージャンプや、エメラルドグリーンの川で泳いでみたいな、と感じました。自分は地域医療を十二分に楽しみたいと思いますので、楽しみをこれから見つけていきたいと思いました。

地域に求められている医療人としての理想は人に寄り添えるような医師です。

熊本大学 2年

前は冬の実習しか参加できなかったため、今回の大人数で実習に参加できて楽しかったです。医療に関わることでだけでなく、地域のまちづくりや水害の際の苦労、災害への教訓など多くのことを学ぶことができて達成感がありました。今回の実習では資源や人材不足といった地域ならではの課題を実感し、それに対して IT やロボットを使うといった解決策を考えることが出来ました。医師の先生からはどこまで診るか、検査するか悩むところもあると知りました。将来は地域で働く医師として、限りある人材や資源を上手く使い、無駄を作らないような医療ができるように心がけたいと感じました。

熊本大学 2年

前回の冬季実習とは異なる視点から地域医療について学べたので大変充実していたと思う。今回の実習を通して、少子高齢化への対策を地域や施設、企業が連携して前向きに行っていることが分かった。特に、健康寿命を伸ばすために企業と連携して自分の体の状態を可視化できたり、運動をする習慣を身に付ける取り組みは素晴らしいと思った。また、身体健康だけではなく心の健康も健康寿命に影響し、外に出て地域の方々と顔を合わせて交流する場を提供する事が必要であることがわかった。地域においては、そういった各所の取り組みに賛同して協力できる医療人が必要だと思う。

熊本大学 2年

私は昨年の夏季実習に参加出来なかったため初めての実習でしたが、非常に多くのことを学ぶことが出来、参加出来て良かったと思いました。その地域の実情に合わせた取り組みや働いていらっしゃる方の思いを知ることが出来ました。高齢化が進む中でできる限り全ての人をサポートするため尽力されている姿がとても印象に残りました。また、長年この地域に住んでいらっしゃる方とは見え方

や感じ方が違うかもしれませんが、移動中に窓から見える風景がとても美しいものでした。将来は地域医療に携わる中で町の活性化にも取り組んで行きたいと思いました。

熊本大学 2年

本実習では、患者の生活に近い環境で行う「地域」医療は、大きな病院の医師にも必要な視点であるし、都市部のかかりつけ医にも求められることだと感じました。他方、都市部以外では、救急搬送や医師の確保などに課題があることを改めて認識しました。これを踏まえ、地域で求められる医療人の理想像は、勤務地やその立場を問わず、患者の生活を考慮した医療を提供し、同時に公衆衛生的な広く柔軟な視点を持ち、特に地理的な医療格差においては、遠隔診断などの ICT の活用にも進んで取り組むことだと考えました。

熊本大学 2年

今回の夏季地域医療特別実習では事前学習を含め、実際に地域に赴きとても深い学びがあったなと感じました。私たちの班では、特別養護老人ホームやそこに隣接するクリニック、生涯スポーツ施設にいき、地域の人が利用しやすいような工夫が施されていることを学びました。また今回の実習を通して、逃げないことの大切さを学びました。地域医療をしていく中で様々な壁が立ちふさがることがあると思いますが、その時にいかに努力して、それに向き合えるような医師になりたいと感じました。

熊本大学 2年

夏季地域医療特別実習では、事前に共有されていた目標は概ね達成できたように思います。またそれだけではなく、現地に赴いて自分の目で見て、自分の耳で聞いたからこそその学びが多くありました。特に、住民の健康を支える医療機関や医療従事者の連携の重要性を強く感じました。将来は、地域特

有の医療ニーズに応えるための柔軟な対応ができる、地域を愛し地域に愛された医師になりたいです。

熊本大学 2年

今回の実習では実習の目的をしっかりと達成出来たと思う。今回は以前参加した冬季の地域医療実習とは異なり、医療施設以外の場所に訪問することが出来たし、スライド作成や発表などが出来た。そのためより深い理解にも繋がり、地域としての課題もよく見えたと思う。これらをもとに地域住民の健康だけでなく生活面までも気かけられるような医療人が求められているのだらうと考えた。

熊本大学 1年

夏季地域医療特別実習に参加して、球磨のあさぎり、湯前、水上、五木の地域を知り、地域との関係を深めるといった目標を達成できたとおもう。将来、この地域に求められている医師像であったり、医療の形であったり需要を知ることができた。その需要に応えていけるか？患者さんのバックグラウンドをみれる医師になりたい。また、地域の現状を様々な視点から見て学生同士だけでなく先生も交えて積極的に意見交換することができて自分の考えを深めることができて良かった。地域枠や自治医科大生の先輩方と交流することができ仲を深める有意義な時間を過ごすことが出来たので良かった。

熊本大学 1年

夏季地域医療実習を通して、地域医療の現場の雰囲気を感じ取ることができ、行ってみたことがない、多良木町や水上村、あさぎり町、湯前町に行くことができ、どんなところなのか、どのような雰囲気なのかを感じることができました。老人ホームや、介護施設との連携、予防医療、健康増進の理解を進めることが大切だということがありました。

熊本大学 1年

初めて参加しました。以前家族がお世話になった医師の先生が球磨出身だとお聞きして、多良木病院の見学をとても楽しみにしていました。産科の不足についてのお話も聞くことができてとても勉強になりました。

自治医科大学 1年

今回の夏季地域医療特別実習では、事前学習をしたこともあり、自分が注目したいところをしっかりと把握して参加することができたため、達成度は高かったように思う。自分は1年生であり、何もかもが初めての経験となったわけだが、この実習を通して一番印象に残っていることは、「地域の人たちに期待されている」ということだ。訪問先でのお話や懇親会の中で、それを直接伝えてくださった方が何名もいらっしゃり、これからより一層勉学等に励んでいこうと身が引き締まる思いがした。また、診療所内を見学させていただいたり、現在そこで働いていらっしゃる先生方のお話を聞いたりすることができた。今回関わらせていただいた先生方のように、地域の人たちに信頼していただけるような、また、期待に応えられるような立派な医師になりたい。

自治医科大学 1年

夏季地域医療特別実習は、普段大学の授業では触れることのない地域医療の現場に触れるいい機会だった。特に1.2年生はこれからの勉強のモチベーションになると感じた。

この実習では理想と現実の乖離を学んだ。どれだけ頭の中ではうまく回せていても実際のところはそういかないことが多々ある。

医者として働くだけでなく、地域を支え、地域を盛り上げる存在が地域医療で求められると思った。

3. 冬季地域医療特別実習

▶ 冬季地域医療特別実習の概要

大学カリキュラム等の都合で夏季実習に参加できなかった学生を対象に、12月に1泊2日の日程で上益城地域（山都町）にて、冬季地域医療特別実習（以下「冬季実習」）を行いました。

この度の冬季実習も、上益城地域の自治体をはじめ関係機関の多くの皆さまのご理解とご協力のもと、地域医療をはじめ、地域の町並みや歴史にふれることができ充実した実習となりました。実習の詳細については、次頁以降にまとめています。



- 実習日程：2024年12月25日（水）、12月26日（木）
- 実習地域：上益城地域（山都町）
- 参加学生：熊本県医師修学資金貸与学生 … 9名

▶ 実習スケジュール

【1日目】12月25日（水）

時間	行程	詳細
12:45～13:15	集合・出発	□ 熊本大学病院
13:15～14:15	移動	 熊本大学病院 → 山都町
14:20～15:20	講話 ディスカッション	□ 山都町役場 「山都町の概要と保健事業について」 山都町健康はけん課 健康づくり係 保健師 飯法師 直美 氏
15:25～15:55	移動	 山都町役場 → そよう病院
16:00～17:00	講話	□ 山都町包括医療センターそよう病院 「そよう病院の説明・見学」 病院長 山下 太郎 先生
17:05～17:20	移動	 そよう病院 → 宿泊施設
17:25～18:25	休憩	
18:30～20:30	懇親会・意見交換会	□ レストラン マアム
20:30	宿泊	 泊まれる道の駅 そよ風パーク ホテル WINDY

【2日目】12月26日（木）

時間	行程	詳細
7:00	起床・朝食	
8:30	集合	
8:40～8:50	移動	 宿泊施設 → 福祉施設
9:00～10:00	見学	□ 特別養護老人ホーム 蘇望苑
10:05～10:15	移動	 福祉施設 → 地域踏査①
10:20～11:30	地域踏査①	□ 山都町フットパス【馬見原コース】
11:40～11:55	移動	 地域踏査① → 昼食会場
12:00～13:00	ランチミーティング	□ 道の駅 清和文楽邑（レストラン 四季のふるさと）
13:05～13:15	移動	 昼食会場 → 診療所
13:20～13:50	見学	□ 井無田へき地診療所
13:55～14:25	移動	 診療所 → 地域踏査②
14:30～15:20	地域踏査②	□ 通潤橋・史料館
15:30～16:30	移動	 山都町 → 熊本大学病院
16:30	帰着・解散	□ 熊本大学病院

▶ 参加者及び協力機関等

※敬称略

参加学生	
熊本大学医学部	5年 西山 望、平木 亨弥
	4年 松岡 りほ、戸田 慎之介
	2年 梅田 哲也
	1年 中田 敦之、福山 陽斗、松下 晴翔、吉富 才華

スタッフ	
熊本大学病院	<地域医療支援センター> センター長 松井 邦彦（総合診療科 教授）／ 特任助教 高柳 宏史、堤 龍子 コーディネーター 無田 英昭、川添 光芳、原田 淳子／事務補佐員 横手 友紀子 <地域医療・総合診療実践学寄附講座> 特任准教授 荒木 智／特任助教 佐土原 道人、北村 泰斗 事務補佐員 山並 美緒、木口 知佳子 <総合診療科> 医員 松田 圭史
	熊本県 へき地医療支援機構 専任担当官 小山 耕太（くまもと県北病院 総合診療科） 健康福祉部医療政策課 村川 祐樹
外部講師	松岡 隼平（阿蘇医療センター 内科）

実習協力機関等（懇談会参加者含む）	
熊本県へき地医療 医師の会	会長 片岡 恵一郎（小国公立病院） 稲田 啓介（公立多良木病院）、板井 陽平（小国公立病院）
山都町	町長 坂本 靖也、福祉課 課長 高野 隆也、健康はけん課 課長 木實 春美
山都町包括医療センター そよう病院	病院長 山下 太郎 事務長 枝尾 博文、総務係長 岡崎 地真、医事係長 船井 晃晴 中瀬 卓*、早川 香菜美*

*…地域枠医師・自治医卒医師

協力施設及びご協力いただいた皆さま	
行政関係	山都町
医療機関	山都町包括医療センターそよう病院、井無田へき地診療所
高齢者福祉	特別養護老人ホーム「蘇望苑」
地域振興	ECO 九州ツーリズム合同会社、通潤橋史料館
その他	泊まれる道の駅 そよ風パーク ホテル WINDY、道の駅 清和文楽邑、 近畿日本ツーリスト

3-1. 冬季実習の様子

— 1日目（12月25日） —

■ 講 話・ディスカッション：山都町役場

山都町役場での実習では、健康ほけん課及び福祉課のご協力をいただき、山都町における保健事業や介護保険事業、オンライン遠隔診療を利用した医療支援や、無医地区等での診療体制等に関する詳しい資料を事前にご準備いただきました。

当日は、保健師の飯法師様、藤原様にご対応いただき、学生が事前資料等を基に検討してきた山都町における保健・医療・福祉に関する課題等について、ディスカッションを行い、高齢化が著しく進んだ地域での保健事業や介護保険サービス、診療提供体制の在り方や改善策等について、活発な意見交換が交わされました。



■ 講 話・病院見学：山都町包括医療センターそよう病院

山都町包括医療センターそよう病院 山下院長によるご案内のもと、診察室や設備等の見学を行いました。その後、そよう病院における地域医療研修の特徴や、地域の福祉をはじめとする多職種との連携、医療 Maas 車両の導入により期待されること等についてご説明いただきました。

また、熊本県医師修学資金貸与制度利用の先輩医師 中瀬 先生（同病院勤務）より、制度利用者の卒業後のキャリア形成について、ご自身の経験を交えながらお話しいただきました。



■ 懇談会・意見交換会：レストラン マアム

実習にご協力いただいた、山都町包括医療センターそよう病院の医師や事務スタッフ、山都町役場職員等、多数の方にご出席いただき懇談会・意見交換会を行いました。これから地域医療を目指す学生たちに、山都町や地域医療の魅力など、色々なお話をいただき非常に有意義な時間となりました。



開会挨拶
松井センター長

来賓挨拶
山都町長 坂本様

来賓挨拶
そよう病院 山下院長



来賓挨拶
熊本県へき地医療医師の会 片岡会長

先輩医師挨拶
そよう病院 中瀬先生

先輩医師挨拶
そよう病院 早川先生



学生代表挨拶
熊本大学生

閉会の挨拶
熊本県へき地医療支援機構
専任担当 小山先生

— 2日目（12月26日） —

■ 施設見学：特別養護老人ホーム 蘇望苑

特別養護老人ホーム 蘇望苑 甲斐施設長より、施設の概要や看取り介護の取り組み、災害やコロナ禍での対応等についてご説明いただきました。その後、看取り介護の状態にある方の静養の現場や、入所者の方の部屋などの利用スペースや設備等をご案内いただきました。また、併設するデイサービスセンターの様子も見学させていただきました。



■ 地域踏査：山都町フットパス～馬見原コース～

ECO ツーリスト合同会社 寺崎代表のご案内のもと、山都町フットパス（馬見原コース）に挑みました。歴史情緒あふれる馬見原商店街の街並や、馬見原橋から望む五ヶ瀬川の豊かな自然など、山都町の魅力を感じながらフットパスを楽しみました。



■ ランチミーティング：道の駅 清和文楽邑

道の駅 清和文楽邑にある レストラン「四季のふるさと」にて山都町の食材が使用された料理をいただきながらランチミーティングを行い、今回の実習での成果等について意見交換を行いました。



■ 診療所見学：井無田へき地診療所

当日の担当医より、限られた設備のなかでの診察の提供体制や、オンラインシステムを利用した中核病院との患者情報の共有、地域の実情等についてお話いただきました。



■ まちづくり関連施設視察：通潤橋及び史料館

2023年9月に国宝に指定された「通潤橋」を訪問し、史料館にて通潤橋の建設までの経緯や、仕組みなどについて模型や当時の資料、通水管をお見せいただきながら詳しくご説明いただきました。



3-2. 冬季実習の評価と振り返り

【実施目的】

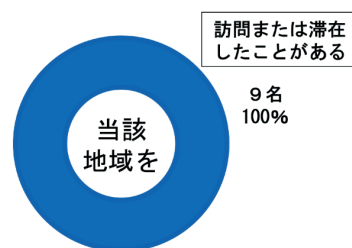
- 冬季地域医療特別実習の教育的効果と「地域を知る」ことができたか検証
- アンケートに回答することによる参加者の自己省察の促進
- 今後の企画や運営の改善のための参考資料

【回答者の構成】

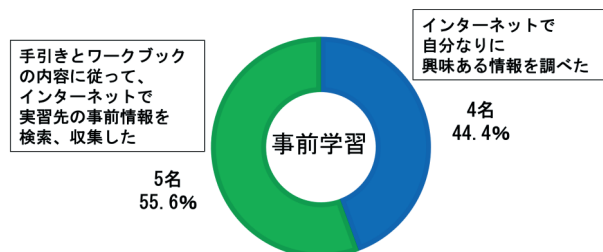
	1年	2年	3年	4年	5年	計
熊本大学	4	1	2		2	9

～冬季実習に関するアンケート結果～

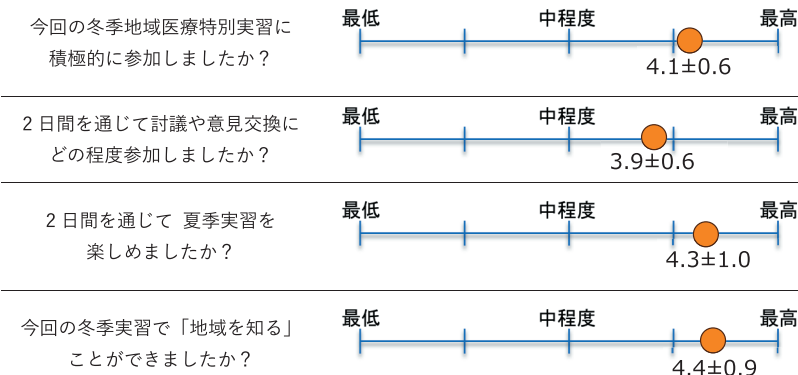
■ 今回実習を行った地域（山都町周辺）へのこれまでの訪問状況について



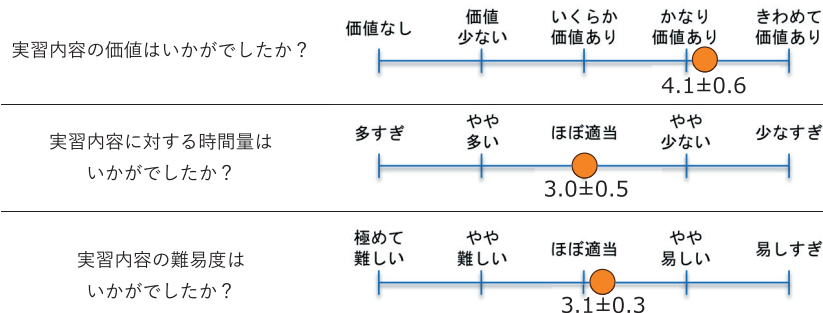
■ 学習について、当日、実習参加するまでの自身の状態について



■ 今回の冬季地域医療特別実習に参加した自己評価



■ 今回の冬季地域医療特別実習に対する全般的な評価



■ 今回の冬季実習全体にわたり「良かった」と思われること

- 実際に義務年限で働く可能性のある病院・地域のイメージを掴むことが出来た。
- 現場の様子を見学したり、町の医療に携わっている方々と直接お話できたりしたことが良かったです。
- 馬見原探索など、地域を知る活動ができたこと。
- 地域についていろんな観点から知ることができた。
- 実際に地域の医療機関や現場を訪れ、医療資源に限られる中での診療や、患者さん一人ひとりに寄り添った医療提供の工夫を学ぶことができた。地域に根差した医療の意義を深く理解できたことが、大きな収穫だった。

- ・ 役場の方たちや、病院や診療所に携わる方たちと質問形式でディスカッションを行うことで、地域の特徴がより詳しく知ることができました。
- ・ 病院の見学や役場の方との意見交換、街歩きなど様々な観点から山都町のことを知ることができ、その良さに気づくことができた。

■ 今回の冬季実習全体にわたり「芳しくなかった」と思われること

- ・ 可能であれば、医療を受ける側の方々のお話も聞いてみたかったです。
- ・ 試験の日に実習があったのは少し大変だった。
- ・ 診療所ではどのように診療を行なっているか詳しく質問できたら良かった。
- ・ 特になし。（２）

■ 今回の開催時期、日程、日数についての意見

- ・ 今回と同じ日程がちょうど良いと感じます。
- ・ 一泊２日でちょうど良い。
- ・ 適当であった、時間があればその他の診療所も見てみたかった。
- ・ 初日が午後からになったのが残念だが、各学年のカリキュラムも変わってきているので仕方ないと思う。

■ 「冬季地域医療特別実習の手引きとワークブック」についての意見

- ・ 様々な情報が見やすく載せてあり非常に助かりました。ありがとうございました。
- ・ 事前学習がしやすかった。
- ・ 地域の医療的な特徴だけでなく、文化や観光資源に関しての資料もいただけていたので、事前学習が行いやすかったです。
- ・ 調べ学習をするのに適切だった。

■ 「事前学習や課題」についての意見(事前に取り組んだ、取り組んだに係わらず)

- ・ 事前に学習していたので話が入ってきやすかった。
- ・ 事前学習で生じた疑問を質問することが出来たので、事前学習は非常にためになったと思います。
- ・ インターネットで土地の特徴などを調べた。
- ・ 詳細な情報を調べた時に、私の調べ方が悪かったのかもしれませんが、直近の情報が見当たらなかったもので、より外部の方たちに知ってもらうためにも、市町の情報を更新された方が良いかなと思いました。
- ・ ディスカッションするにあってもう少し具体的な解決策を挙げておくとうよかったと思った。
- ・ 実習全体を通して時間が限られているので、有効に使うためにも事前学習は大事だと思う。

■ 「フィールドワーク」という方法（地区視診、踏査、各所訪問）についての意見

- ・ 情報だけでなく雰囲気も知ることが出来たり、自分なりの視点で学ぶことができたりするのでとても良いと思います。
- ・ 実際に現場に行くことで、見学したりお話を聞けて良かった。
- ・ 山都町の様々な地域に訪問することができ、有意義な時間を過ごすことができました。また、地元のガイドの方に説明して頂いて、より詳細な情報を得ることができました。
- ・ ガイドさんのお話があったので、とても詳しく学ぶことができた。
- ・ 実際に働き、その土地に住むことを考えた時にフィールドワークが役に立つと思う。

■ 今後取り上げてもらいたい企画、内容、開催地域の希望など

- ・ 山都町と同じかそれ以上に熊本市内に行くのに時間がかかる地域に行ってみたいです。
- ・ 荒尾地域。

■ 実習に参加した自身の成果について

○ 交流やコミュニケーション

・ 気晴らしやレクリエーション、レジャーとなった	3.6 ± 0.5
・ 同学年、他学年、他大学の医学生との交流の場になった	3.6 ± 0.5
・ 訪問先の関係者、地域住民と交流ができた	3.2 ± 0.7
・ 訪問先から歓迎されたと感じた	3.7 ± 0.5

○ 上球磨地域・五木村を知ることについて

・ 地域の魅力が伝わった	3.7 ± 0.5
・ 地理、地勢、風土が分かった	3.6 ± 0.5
・ 歴史・文化が分かった	3.4 ± 0.5
・ 暮らしや住まいの実情が分かった	3.1 ± 0.6
・ 地域の医療・福祉・介護・保健や社会の現状と将来像が分かった	3.4 ± 0.5
・ 実際に住んでみたいと思った	3.0 ± 0.7
・ また、観光などで訪れたいと思った	3.2 ± 0.7
・ 地域の魅力が伝わった	3.7 ± 0.5

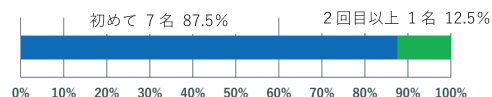
○ 医学生として、将来の医師として、医師像、働き方など

・ 将来の医師としてのキャリアを考える参考になった	3.7 ± 0.5
・ 将来の勤務するかもしれない地域の医療に携わる動機付けとなった	3.4 ± 0.5

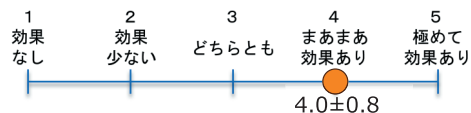
・へき地、離島、医師不足地域で働く医師や医療人のロールモデルや好事例を見つけた	3.1 ± 0.6
・へき地、離島、医師不足地域で医師として働くのは大変さや苦勞が分かった	3.2 ± 0.4
・へき地、離島、医師不足地域で医師として働くのはやりがいがあると思った	3.4 ± 0.5
・大学での授業や実習の学修内容のガイドや補強となった	3.4 ± 0.5
・地域医療学、社会医学、公衆衛生学などの医学的な知識の向上となった	3.0 ± 0.7
・地域医療学、社会医学、公衆衛生学などの分野に学術的な興味湧いた	3.1 ± 0.8
・医学生でも訪問先の関係者や住民から期待されていることが分かった	3.7 ± 0.5
・医療人として係わることは、地域のエンパワメント（元氣付け）につながる	3.3 ± 0.5
・訪問地域で、医師として仕事と生活を融合・両立できそうだった	3.1 ± 0.6
・将来、自分の専門分野にかかわらず地域医療に携わりたいと思った	3.4 ± 0.5

～フォトボイスに関するアンケート結果～

■ フォトボイスを作成するのは、初めてですか？



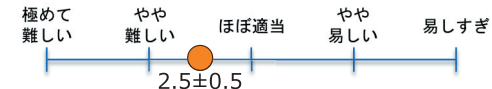
■ 実際にフォトボイスを行ってみて、地域医療に関する教育的な効果はいかがでしたか？



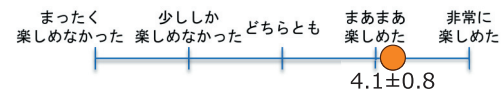
【それは、どのような点ですか？】

- ・ その土地について少しでも詳しくなれる点。
- ・ あまり医療の場面などの写真を撮っていなかったのが、医療とは関係のないフォトボイスになってしまった。
- ・ その地域の特徴や文化を学ぶことで、その地域住民の方々との接点を増やすことができる点。
- ・ 写真を撮った時の思いを振り返ることができる点。また、その時には気づけなかったことにも気づける点。
- ・ 地域を知る努力は、地域住民との信頼構築にもつながる。地域の特徴や歴史、文化を尊重する姿勢を示すことが、住民との対話を円滑にし、より良い医療提供に結びつくと思うから。

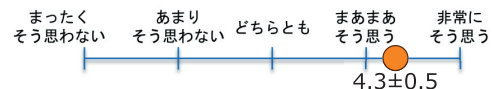
■ フォトボイスを実際に行ってみた難易度はいかがでしたか？



■ フォトボイスを楽しめましたか？



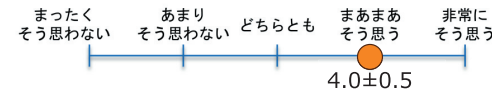
■ 作成することで、新たな気づきや発見につながると感じますか？



【それは、どのような点ですか？】

- ・ 他にも着目してしらべることができる点。
- ・ 実習から少し期間が空いたので、2 日間でどのようなことを学んだのかを振り返る良い機会となった。
- ・ 写真に撮ることで、その時は気づけなかった点に気づけることができる点。
- ・ この写真を撮った後で聞いた話が、この写真にも表れているということに気づける点。
- ・ 建物や道路の維持状況や看板や掲示物から地域の特色を見てとれるから。

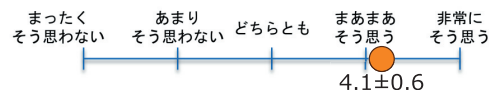
■ フォトボイスを作成した場面の深い洞察につながりましたか？



【それは、どのような点ですか？】

- ・ ガイドさんの話から生まれた疑問点をさらに調べて学ぶことができた点。
- ・ 写真を撮影したときにどのようなことを感じて写真を撮ったのか思い出せる点。
- ・ 写真に写る風景や物の配置から文化的な構造が読み取れる点。
- ・ 景観を守るためには見えにくい場所に置くなどの対処方法もあるのではないかと思っていましたが、それだといざと言う時に使えないので、このように景観に溶け込む形で目立つ方がよいということに気づけました。

■ 写真（フォト）と説明（ボイス）を組み合わせることは、相手に伝える上で効果的だと思いましたか？

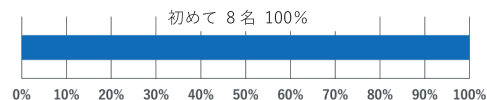


【それは、どのような点ですか？】

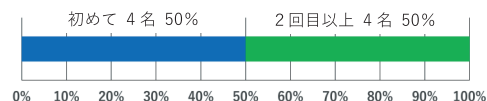
- 視覚に残りやすい点。
- 写真と文章があることで、文章だけの場合よりもイメージが伝えやすくなると思うから。
- 写真は直感的で感覚的な情報を伝え、説明はその背景や意図を補足するから。
- 写真のみ、文章のみだと伝えたいことが伝わりづらい部分もあるが、それを同時に行うことで、伝えたいことがより伝わりやすくなる場所。
- この写真を撮った理由を伝えられる点。

～肥後狂句に関するアンケート結果～

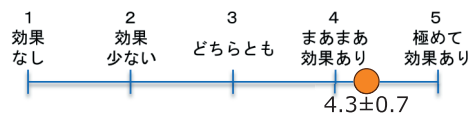
■ 学校教育以外で、肥後狂句を作成するのは、初めてですか？



■ 短い定型詩（短歌、俳句、川柳）を特別に習ったことがありますか？



■ 実際に行ってみて、地域医療に関する教育的な効果はいかがでしたか？



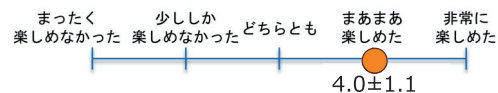
【それは、どのような点ですか？】

- 地域医療において地域を知ることは必要だから
- 川柳という限られた文字数の中で情景や感想をまとめることで、自分が伝えたいことが端的に説明できる場所。
- この句を詠んだ場面以外にも同じような場面があったなと振り返ることができた点
- 地域について思い出すきっかけになるから。

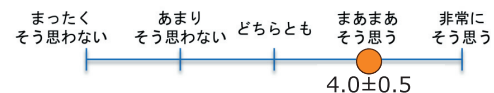
■ 肥後狂句を作成してみた難易度はいかがでしたか？



■ 肥後狂句作成を楽しめましたか？



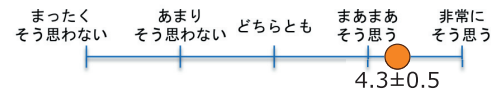
■ 作成することで、新たな気づきや発見がありましたか？



【それは、どのような点ですか？】

- 通潤橋について資料館で学びを深めました。
- 自分のこれまでの生活の中にも同じような場面があったことに気づけた点。
- 後から考えてみると良い点も見つかるから。

■ 肥後狂句の題材として取り上げた場面や事例の深い洞察につながりましたか？

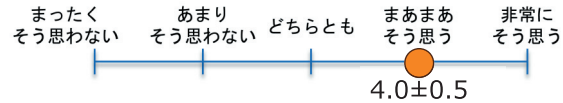


【それは、どのような点ですか？】

- 修学旅行ではあまり考えてもいなかった通潤橋の責務を考えさせられました。
- 病気で苦しむ人々でも、心の拠り所があることでその痛みが和らぐ。
- 少ない文字数で表現するには知見を深める必要があるから。

- 地域住民の思いなども考えることができた点。
- 地域について知るきっかけとなったから。

■ 肥後狂句で、方言の使用や地域に特化した題材を設定することは、地域医療を考える上で効果的だと思いますか？



【それは、どのような点ですか？】

- その土地に暮らしている方との会話においても必要であるから。
- 自分がその地域の住民になったように感じ、記憶によく残ると感じる点。
- 方言を知ることはコミュニケーションを取る上で重要だから。

3-3. 冬季実習参加学生の感想

熊本大学 5年

冬季地域医療特別実習を通して山都町の医療について学ぶことができました。そう病院や井無田診療所、蘇望苑の見学に行きそれぞれの施設の役割や概要を理解しました。蘇望苑では看取りの様子や入居者の方とのふれあいなど、この実習以外ではなかなか出来ないような体験をさせて頂きました。また、実習に参加する最高学年として下級生を引っ張らないといけないと感じ、今まで以上に積極的、能動的に学ぶことが出来たと思います。地域においては高齢化が進んでいるので高齢者に対してどう医療を行っていくかが大切になってくると感じました。

熊本大学 5年

今回の実習では地域を知るという目標について、達成できたと思います。地域医療の中核を担っているそう病院を知り、特養などの施設との関わりや診療所の応援など、まさに都市部でない場所での医療がどのように展開されているのかを学びました。また、山都町の医療費や介護問題を調べ話し合い、地域の一員となったかのように考えることができ、貴重な経験となりました。地域においてはやはり、全身を診れる医師、子どもから大人までをもカバーできたらかなり貢献できると感じました。

熊本大学 3年

今回初めて地域医療特別実習に参加したが、将来地域枠の義務年限で働く可能性のある病院や地域について知ることが出来たとても良い機会となったと感じる。また普段交流のない地域枠の医師や先輩、後輩と交流することが出来たことは今後地域医療における医師の繋がりに活用出来そうだと感じた。

熊本大学 3年

今回の地域実習では、山都町の医療の実態を、町の統計や病院・介護施設で働いている方の話から知ることができました。医療へのアクセスが難しい人のための乗り合いタクシーや、オンライン診療ができる車など、様々な問題を解決するための新しい取り組みが行われていることもわかりました。医師が少ない地域では、自分の専門だけを極めるだけではなく、広い視野で患者さんをみることができる医師が求められていると思いました。

熊本大学 2年

今回、私自身初めての地域医療特別実習に参加させていただきまして、山都町に関して医療的な部分だけでなく、文化や観光に関しても学ぶことができました。地域医療支援センターの方々や山都町で医療に携わる方々に深く感謝申し上げます。今回の実習に関して、特にそう病院は地域包括医療病院ということもあり、ドクターヘリの受け入れも行っておられ、地域に求められる病院像そのものであると感じたとともに、このような病院が地域には数少なく、また地域で医療に携わる方が少ないということを実感しました。また蘇望苑では、コロナ禍の時に面会ができないご家族のために、入居者様に対するケアやサービスを映像に撮って心配を和らげるといった工夫がなされており、入居者様だけでなくご家族にもケアを行うことが必要であるということが身に染みて感じました。将来、熊本県の地域医療に携わる医師となった際に、今回の地域医療実習で学んだことを活かし、地域の方々に認められ、必要とされる人間に成長したいと思うとともに、医療だけでなく、地域の発展に寄与する人間となれるように今後努力していきたいと感じました。

熊本大学 1年

今回は山都町について、医療、文化、生活、歴史を深く学んだ2日間でした。そう病院や特別養護老人ホーム「蘇望苑」等実際にいったことで、地域医療における現場の状況を知ることができました。また、行く先々で食べた料理や学んだ歴史などは興味のあるものばかりで山都町の魅力も感じることができました。山都町のような地域で働く医者は、地域に密着して地域住民の方とコミュニケーションをとり、限られた物資を上手く活用して働くことが大事だと思いました。

熊本大学 1年

夏季地域医療特別実習に参加できず、今回が初めての地域医療特別実習となりましたが、自分なりによく学ぶことが出来たと思います。

今回の実習での一番の学びは、自力で通院するのが困難な方に医療を提供する方法は訪問診療だけではなく、デマンドタクシーなどを活用するものも有効であると知れたことです。

今回の実習で、地域医療では多職種連携が鍵であると感じました。今後の大学生活においてこのことを忘れず、他者と協力して何かをやるという機会を増やしていきたいと思います。

熊本大学 1年

冬季地域医療特別実習では、山都町における地域医療の現状を学びました。山都町役場の方との意見交換を通じて、地域の保健医療の課題や取り組みについて理解を深め、病院や診療所の見学では、地域の方々に寄り添い信頼される医師の姿を目の当たりにしました。この経験を通じて、地域医療においては医療技術だけでなく、住民との信頼関係を築く姿勢が重要であると実感しました。今後、地域のニーズを的確に把握し、住民に寄り添える医療人を目指したいと考えます。

熊本大学 1年

- ① 冬季地域医療特別実習を通じ、地域特有の医療課題や現場の実情を直接学ぶことができ、実習の目標をほぼ達成できたと感じます。住民との信頼関係や多職種連携の重要性を実感しました。
- ② 患者さんの生活背景を理解し、個別に対応する姿勢や、限られた資源を最大限に活用する工夫や地域に根ざした医療の意義を学びました。
- ③ 理想の医療人像として、技術力だけでなく、地域文化や住民の価値観を尊重し、信頼関係を築きながら包括的な医療を提供できる共感性が必要だと考えます。

4. 教員・外部講師のコメント

— 熊本大学病院教員 —

地域医療・総合診療実践学寄附講座 特任助教 佐土原 道人

コロナ禍で一時中断した実習も2023年度から再開しました。実習の構成の見直しとICTと情報端末の活用で、以前の2泊3日の同様の内容を1泊2日にコンパクトにまとめることができるようになりました。夏季と冬季に分けたことで、未参加の学生が減りました。訪問先でも学生の事前学修による質問から回答してもらった反転授業形式、地域へのコミットメントを高めるツールとして「フォトボイス」も定着、今年度から作品作成を通じ深い洞察と省察を促す試みとして「肥後狂句」を導入しました。これまでの取り組みは、教員が学会発表していましたが、本年度の実習の内容も2023年度に続き学生達自身が発表予定です。今後も、学生の地域での学修の主体性と自律性を保ちつつ、さらに充実した内容になるように計画をしてみたいです。この場を借りて、ご参加の学生、訪問先の関係各所の皆様方に感謝申し上げます。

地域医療支援センター 特任助教 高柳 宏史

私は2016年度から2019年度まで地域医療特別実習の実施運用の担当者として任されていました。その際にそれまでの医療機関実習から、今の「地域を知る」という観点での実習内容に変更しました。医師に求められるのは医療機関内の医療だけにとどまりません。それは医療資源の乏しい地域になればなるほど、医師には地域社会における健康福祉分野での実務的な意味でも役割を求められる機会が多くなります。熊本大学に地域枠の入試制度が設けられていますが、彼らのための特別なカリキュラムが設けられているわけではありません。2023年度から選択科目として第5学年に「地域医療総合演習」が、地域枠学生のためのカリキュラムといえますが、熊本県内の地域に関する教養や地域医療の素地を身に着けるのは、座学では不十分だと考えています。この「地域を知る」実習をデザインしてから8年ほど経過しましたが、今年度の夏と冬の実習に参加し振り返ってみてもこの改変はやってよかったと思っています。自画自賛ではありませんが、学生にとって初めて訪れる地域で、住民や医療機関のスタッフと交流し、その出会いの中から自分たちが期待されていることを感じるのとはとても得難いものとなるのは間違いありません。学生諸君には、県民から見られている存在だということを意識して、これからの勉学や自己研鑽に励んでもらいたいと思います。そして、このような実習を企画し支えていただいた熊本県、熊本大学病院、山都町、山都町包括医療センターそよう病院の関係スタッフの方々に改めて御礼申し上げます。

地域医療支援センター 特任助教 堤 龍子

4月から当センターに勤務し、教員として初めて実習に参加いたしました。私自身、学生時代に毎年夏季実習に参加しており、人吉球磨では5年間勤務した経験もありますが、教員として参加した今回の実習は、学生時代とはまた異なり、新鮮なものでした。

熊本大学と自治医科大学の学生さんたちが交流を深め、お互い顔見知りになることは、将来地域で働きやすくなるうえで重要だと感じています。私自身の経験からもそう思います。また、将来働く可能性のある地域を少しでも知ることは、「地域で働く」ということへの漠然とした不安を軽減する一助になったのではないのでしょうか。事前学習で皆さんが地域についてしっかり考え、実習中の議論や発表にそれが

表れていた姿がとても印象的でした。

実習を通じて、地域での大変さだけでなく、その地域の魅力を発見できたのであれば、それはとても素晴らしいことだと思います。

最後に、実習にご協力いただいた医療機関や行政の皆さまには、計画の段階から多大なるご支援をいただきました。心より感謝申し上げます。本当にありがとうございました。

地域医療・総合診療実践学寄附講座 特任助教 北村 泰斗

昨年度につづき、2度目の参加となります。懇親会の席で、学生の皆さんとお話をしていると、上球磨地域・山都町の方々の期待や風土などについて、それぞれに感じ取っておられるようでした。各地域における医療や保健・福祉としての視点はもとより、よりよい地域づくりといった視点でも、将来自分に何ができるかといったことに思いを馳せておられる様子をみて頼もしく思いました。座学のみではなかなか感化されないことのように思います。本実習は、事前学習、フィールドワーク、懇親会、発表準備、発表を通して、将来地域医療を担う学生の皆さんが、自分たちが担う熊本の地域を知り、なかまを知る大切な機会となっていると実感致します。今後もよりよい機会となるよう参画していきたいと思ひます。

実習を支えていただきました行政、医療・福祉機関の皆様、地域の皆様方に、心より感謝申し上げます。

総合診療科 医員 松田 圭史

この度は 2024 年度の夏季・冬季地域医療特別実習にスタッフとして参加させて頂きました。私も学生時代には熊本県医師修学資金貸与生として本実習に参加しておりましたが、医師となった今参加することで、学生時代とはまた違う視点で地域を診ることができ、私自身とても勉強になりました。学生にとっては、将来地域で働く具体的なイメージまではなかなか湧かないかもしれませんが、「地域を知る」第一歩としてはとても有意義な実習だったのではないかと思います。また、実際に地域住民や地域医療に関わる方々、地域枠の他の学生、自治医科大学の学生との交流もとても貴重な経験となったはずです。この経験を活かしてさらに地域医療を知り、考え、将来はそれぞれの地域で医師として活躍してくれることを期待します。私自身も後輩達に負けないよう研鑽し、何らかの形で熊本の地域医療に貢献できればと思います。

最後になりましたが、このような素晴らしい実習を企画・運営してくださった関係者の皆様、ご協力頂いた地域の皆様に心より感謝申し上げます。ありがとうございました。

— 外部講師 —

熊本県へき地医療支援機構 専任担当官 小山 耕太

医療政策課に赴任して 2 年目になり、昨年度に引き続き参加し、地域医療を担う自治医大生と地域枠学生の義務履行に向けた顔の見える関係構築に大変有意義でした。同時に、彼等が将来赴任する可能性のある現地に赴き、自身の地域からの期待を実感する良い機会であったと感じました。

また、現在熊本県として義務内医師に対して実施している、診療指導・教育支援の重要性を認識することができたことも大きな収穫となり、支援する側としてモチベーションアップする良い機会になりました。

「ゆっくりだけど、確実に前進」

阿蘇医療センター 内科 松岡 隼平

こんにちは。熊本大学総合診療科の松岡隼平です。この度 2024 年度の人吉球磨地方・蘇陽地方での地域医療特別実習に講師として参加させて頂きましたので、そのご報告と感想を申し上げます。

私自身も地域枠出身の医師ということもあり、自らが学生時代に参加していた実習に講師として参加するのは、感慨深くまた見える景色も違うということも感じました。やはり色々な地域の病院での実臨床を経験した上でその地域ならではの取り組みや診療の強み弱みなどを目の当たりにすると、「自分がもしここで働くことになったら、ACS は〇〇病院に搬送して、小児は熱性痙攣単純型やグループ軽症くらいまでは診て・・・」や「〇〇地方は神経系は強いけど、ここは神経系は少し対応に注意が必要だ」など具体的な立ち回りや体制に意識が行くことに気づきました。この俯瞰した医療体制の視点は地域医療に限らずとても重要ですが、学生目線でそのニュアンスを感じとることはなかなか難しいと思います。なので、今回地域医療の実習ならではの教育として、他の病院（熊本市内、他の地域の病院など）との比較で、立ち回り方がどう変わるのか、他の病院にない強みがあるのか、などを意識して指導を行いました。幸い学生達はとても意欲的で、実習先の病院についての深い理解をしてくれていた印象でした。ぜひ今後の他地域での実習でも同じ目線で、実臨床の基礎となる視点や知識を培ってほしいと感じました。また来年以降も機会があれば参加しようと思います。貴重な体験をありがとうございました。

天草市立河浦病院 総合診療科 下地 徹

昨夏、上球磨地域で行われた特別実習に参加しました。私にとって初めての訪問であり地域の雰囲気を感じ、肌で感じる貴重な機会となりましたが、地域医療の場として非常に魅力的に感じました。

実習では、健康教室、病院、まちづくり推進機構、特別養護老人ホームなどを巡り、地域医療と福祉について学ぶことができました。特に、診療と地域づくりの関わりについて関心を持っていたため、それを実際に体験できたことは大変有意義でした。学生たちは熱心に準備をして臨み、上級生を中心に活発なディスカッションが行われ、課題を達成する姿が印象的でした。年次が上がるごとに、学びが確実に積み重ねられていることを実感しました。一方で、随行する私たちが積極的に関与することで、より深い気づきや学びを提供できるのではないかと感じました。今後はより積極的に関わっていきたいと考えています。また、毎年の懇親会では、先生方とお会いし意見交換できるのも楽しみの一つです。地域医療の現場での学びは貴重な経験となるため、今後も可能な限り実習に参加し、より多くの学びを得ていきたいと思っています。

5. その他

■ 地域医療特別実習に関する業績（2023 年度）

2023 年度夏季地域医療特別実習

- Taito Kitamura, Michito Sadohara, Kunihiro Matsui.
“THE FAVORABLE PERCEPTION AND EDUCATIONAL IMPACT OF A FIELDWORK AND LODGING TRIPS FOR MEDICAL STUDENTS WITH SCHOLARSHIPS AND OBLIGATIONS TO WORK IN RURAL AREAS” (Poster presentation)
SGIM 2024 Annual Meeting (May 18, 2024, Boston, MA.)
- 古池雅明（医学科 6 年）、佐土原道人、永野七海（医学科 4 年）、松井邦彦
「熊本県上天草地域と離島における夏季特別実習の報告」（ポスター発表）
第 15 回日本プライマリ・ケア連合学会学術大会（2024 年 6 月 8 日、浜松市）

2023 年度冬季地域医療特別実習

- 山口真子（医学科 5 年）
「2023 年度冬季地域医療特別実習 in 阿蘇の報告」（口演）
第 10 回九州地域医療教育研究会(2024 年 5 月 11 日、那覇市)
- 平木亨弥（医学科 5 年）、西山望（医学科 5 年）、佐土原道人
「熊本県阿蘇地域における、地域枠学生等を対象とした冬季地域医療特別実習前後の地域医療への見方と知識の変化」（口演）
第 15 回日本プライマリ・ケア連合学会学術大会（2024 年 6 月 8 日、浜松市）

■ 新聞掲載

今回の夏季実習の様子を、熊本県の地方紙「熊本日日新聞」と熊本県人吉市で発行されている地方紙「日刊 人吉新聞」より取材・掲載いただきました。

地域医療 住民との関係大事に

五木村 熊本大医学生ら 実情学ぶ

熊本大と自治医科大、熊本県の医学生 8 人が 13 日、五木村を訪れ、将来、地域医療に携わる可能性のある学生らが、医師が不足する地方実情を学んだ。
熊本大学病院地域医療支援センター（左）が毎年開く「夏季地域医療特別実習」の一環として、五木村には小さな集落が力所上点に在る。一方、医療機関は「五木村診療所」しかなく、人吉医療センター（人吉市）の医師 8 人交代で診察している。医師 1 人、田浦開成さん（47）は、開業医皆さんの健康を支援しようと、近所の人たちの関係まで気にける必要がある」と話した。
診療所で学生らは、看護師と患者が親しく対話している様子を目の当たりにした。熊本大医学科 5 年の山口真子さんは「医学の勉強だけではなけり、コミュニケーション能力を身につけることが大事で感じた」と真摯な表情で話した。（金村真衣）



診療所前で、当番医（左端）の話を聞く医学生たち
＝13日、五木村

出典：熊本日日新聞 朝刊 2024 年 8 月 16 日付

日刊 人吉新聞 2024 年(令和 6 年)8 月 27 日 火曜日

地域医療の課題再認識

熊本大病院 医学生が郡内で学ぶ

熊本大学病院の医学生 8 人が、13 日、五木村を訪れ、将来、地域医療に携わる可能性のある学生らが、医師が不足する地方実情を学んだ。

熊本大学病院地域医療支援センター（左）が毎年開く「夏季地域医療特別実習」の一環として、五木村には小さな集落が力所上点に在る。一方、医療機関は「五木村診療所」しかなく、人吉医療センター（人吉市）の医師 8 人交代で診察している。医師 1 人、田浦開成さん（47）は、開業医皆さんの健康を支援しようと、近所の人たちの関係まで気にける必要がある」と話した。

診療所で学生らは、看護師と患者が親しく対話している様子を目の当たりにした。熊本大医学科 5 年の山口真子さんは「医学の勉強だけではなけり、コミュニケーション能力を身につけることが大事で感じた」と真摯な表情で話した。（金村真衣）

球磨版

球磨総局
本誌の発行所
〒960-0001 熊本県人吉市
電話 (0995) 45-1110
FAX (0995) 45-1089

◆販売取次所◆
古座郷地区 本 本 商店 46-1010
道南 地区 新 新 商店 43-3223
鹿野 地区 新 新 商店 47-0203
上 地区 新 新 商店 47-0203
鹿野 地区 新 新 商店 47-0203
相良村地区 新 新 商店 24-4011
山江 地区 新 新 商店 23-4974

熊本の地域医療を再認識する

出典：日刊 人吉新聞 2024 年 8 月 27 日号

おわりに

令和6年度夏季および冬季地域医療特別実習にご協力いただきました球磨郡公立多良木病院、そよう病院をはじめとした医療機関の皆様、並びにあさぎり町、多良木町、水上村、湯前町、五木村、山都町の行政機関の皆様方に、心より感謝申し上げます。

本実習は、熊本県医師修学資金貸与学生ならびに熊本県出身の自治医科大学医学部生を対象に、地域を学び・地域医療への理解を深めることを目的として、毎年夏季に開催しております。しかし、COVID-19感染症の蔓延により令和2年度より3年間、中断を余儀なくされておりました。令和5年度より実習を再開することができるようになり、同時に夏季の実習に参加できなかった学生にも、地域医療を学ぶ機会を提供するため、冬季の実習を新たに追加しております。そして今年度も皆様のご協力により無事に夏季・冬季ともに実習を開催することができました。

今年の実習では、学生たちはフィールドワークや病院見学などに加え、すでに地域で働かれている修学資金貸与医師の先生より地域医療の現状や課題、医師としてのキャリアパスなどの貴重な話を聞く機会を得ることができ、地域医療の現場を肌で感じる貴重な機会になったと思います。私自身も、学生たちとともに地域を歩き、少子高齢化が進む地域における医療の重要性を改めて認識いたしました。

学生からは、「将来自分が働くことになる病院を見学し、地域を学ぶことができ、とても良い経験になった」といった声が聞かれました。本実習が、学生たちの地域医療に対する理解を深め、将来のキャリアを考える上で貴重な機会となったことと確信しております。

今後も学生たちが地域医療に対して高い関心を持ち続け、将来、地域医療を担う人材へと成長できるよう、本実習をさらに充実させていきたいと考えております。今後とも、変わらぬご支援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

熊本大学病院
地域医療支援センター 副センター長
地域医療・総合診療実践学寄附講座 特任准教授
荒 木 智

熊本県地域医療支援機構／熊本大学病院 地域医療支援センター

〒860-8556 熊本県熊本市中央区本荘 1-1-1

Tel : 096-373-5627 Fax : 096-373-5796

E-mail : chiiki-iryo@kumamoto-u.ac.jp

ホームページ : <https://www.chiiki-iryo-kumamoto.org/>



熊本大学病院 地域医療・総合診療実践学寄附講座

〒860-8556 熊本県熊本市中央区本荘 1-1-1

Tel : 096-373-5794 Fax : 096-373-5796

E-mail : chiiki-iryo@kumamoto-u.ac.jp

ホームページ : <https://kumadaisoushin.com/>

